

# 飼鶏要書

落合 茂三郎 著

## 目次

1	総論	P 2
2	有益な鶏種	P 3
3	飼養に適否の土地	P 5
4	鶏舎の建築方向及び構造法	P 6
5	種鶏選択	P 8
6	種鶏配偶数	P 9
7	種鶏に給与する食餌	P 1 0
8	種卵有効期間と種卵貯蔵法	P 1 1
9	ふ卵方法と注意	P 1 2
1 0	母鶏続坐	P 1 5
1 1	母鶏育雛方法	P 1 6
1 2	育雛函育雛方法	P 1 8
1 3	雛の食事と給与順序	P 2 0
1 4	雛5 0日経過後の食餌と給与法並びに1 0 0日経過後の雛の注意	P 2 2
1 5	雛の雌雄判別	P 2 3
1 6	鶏種による産卵の遅速	P 2 4
1 7	練餌調整と給餌回数	P 2 5
1 8	粒餌給与の必要	P 2 7
1 9	着巢の念を断たせること	P 2 8
2 0	成鶏替羽の注意	P 2 8
2 1	少産の雌鶏選抜	P 2 9
2 2	群鶏管理一般	P 2 9
2 3	鶏の害虫とその予防及び駆除方法一般	P 3 1
2 4	鶏の3伝染病	P 3 3
	(1) 腸室扶斯 (腸チフス)	
	(2) 感冒	
	(3) 眼病	
2 5	鶏糞乾燥の一方法	P 3 9
2 6	うすけ交趾の来歴と審査基準	P 4 0
2 7	参考 (販売鶏類定価と運送手続き)	P 4 3

## 1 総論

鶏を飼養するのに2通りある。一つは鶏舎を建築し、多量の飼料を購入し、家人又は使用者を雇って多数の鶏を飼養し、広く食用鶏肉と鶏卵の需用に応じる。または雛をふ化しかつ飼育して種鶏類を販売し、以って一家の生計を営むもの、これを専門飼鶏業者とする。もう一つは農家若しくは定業ある者又は時間のある家族が数羽～数十羽を飼養するもの、これを副業者とする。しかし両者共に目的とする所は、その生産を以って自分の利益を得ることに外ならない。これを以って養鶏は一つの生産事業であるとする。養鶏が生産事業であるとするならば、この事業における方法の適否により利害が分かれるものがあるのは疑うべくもない。私たちは飼養法の良否は重大であると断定する。よい飼養法を得れば事業を盛んにして、一家を経営する収入をえる。あるいは既定の収入を増加させることができる。これに反してその飼養法を誤ると奄ち(たちまち)投資を失い、労力を徒消し、遂に窮地に陥るに至る。よって我々は世間に向かって養鶏業を奨励すると共にその飼養法を知得することを欲して止まない。

ある者が言うには、養鶏は決して専門とするべき性質のものでない。農家の副産に属するものである。なぜならば農家には常に遺粒があるので鶏を放し飼いにし、その遺粒を拾食させる。又は厨房の残飯残蔬(くさびら:やさい)を投与すれば優に十数羽を飼養できる。しかも費やす所がなくとも、1か年に何千個の卵を産し、何十金を得る。私たちはこの見解を見ると、これは根拠のない偏見の甚だしいものであると思う。恐らくこの説を唱えるものは、我々農家の本当の状態に疎い者と言いたい。我が国の普通の農家の耕地はおよそ0.7~0.8haに過ぎない。その収穫物は米、麦及び雑穀を合わせて概算で3,600㍏を超えない。この収穫量で遺粒は果たして幾千あるであろうか。18㍏もしくは90㍏、あるいは180㍏か。3,600㍏を収穫する農家で180㍏の遺粒があることは何人も首肯しないところであるが、一步譲って仮に180㍏の遺粒があるとして、1年に鶏を何羽飼養することができるであろうか。鶏1羽は1日穀粒0.18㍏食べると概算すると1年で65.7㍏の積算になる。180㍏の遺粒があっても僅かに3羽を飼養するのに足りない。また、私は現実に農家に関係して、その生計の内容を推測すると農家の厨房には鶏に渡るような残飯の類があるようなことは決してない。野菜くずあるいは少量の遺棄物はあるが、鶏2,3羽分の副食にも足りないものである。このような状況にあるに拘らず遺粒及び残飯の類を持って各農家毎に十数羽の鶏を飼養する能力を持っているので、養鶏は専門業者の手を離れて農家の副業とすべきであると論ずるのは世事に疎いことが極まると言わざるを得ない。

しかし私たちは、養鶏は必ずしも専門業者に委ねるべきだと論じるつもりはない。専門業者と副業者が共に相まって養鶏業の進歩を期するべきである。要するに或る論者のように副業者の飼養は単に遺粒残飯の類のみを食餌とすると言うが如きは既に立証したように極めてこじつけであり、一笑の価値しかない。よって、私は副業者の飼養法はその大体においては専門業者の指導に従うか、または専門業者が行うことと同じことを行うべき

である。

私たちはその業界においては寧ろ專業者の勢いを渴望せざるを得ないものがある。副業者といっても現下の統計に依ると、国富の上においては容易でない巨額の生産額がある。これを專業者と比べると遥かに優勢であるのは勿論であるが、副業者の役割は単純なものに属する。即ち鶏を飼養して肉卵の需用に応じているというに過ぎない。これに対して專業者においてはこのような単純簡易な役割でない。その業界における事物の發明、進歩、改善、繁殖等多くの重大な事項は必ず專業者の役割である。

鶏は繁殖を自然な状態に放任して、改善的な飼養を行わないと、必ず退化に流れる。これを防ぎなお改善の効果を現実のものにするのに、副業者の資力でこれができるであろうか。私は断じて不可能であると言う。その大きな責務は專業者にあるとする。且つ機械器具の發明及び使用、育雛方法、食糧の改良、有益種類の作出及び繁殖のことは專業者でなければ遂行能がないとする。従って、私は我が国の養鶏業は專業者及び副業者の手で経営を進歩させるべきであると考え。

## 2 有益な鶏種

私たちの養鶏業においては有益な鶏種を選択したり作出したりすることは重要なことである。我が国の在来鶏及び昔から最近までに外国から渡来した鶏種は合計すると50種余になる。これらの中には実益鶏と愛玩鶏がいる。各鶏種の長短、優劣及び利害得損を実験することは如何なる大家禽家といえども大いに困難であり、これを実行することは容易でないことを私は断言できる。

鶏の実益鶏、愛玩鶏の別に関わらずこれらの特徴を良く發揮させるには飼養管理の方法が完全であることが前提ではあるが、その鶏種が気候風土に適するか否かが大きな要因である。例えば温暖な土地では多産の誉れのある鶏種であっても、その鶏がひとたび寒地で飼育すると多病虚弱となってその特徴を埋没させることがある。このことは私が多言することでもない。英国のドルキング種はかの地においては最上の美味しい肉を生産することに加えて生育もよく、性質も温和であるので飼養家は誰もが賞賛するが、我が国に移入した結果は極めて不良であった。産卵数は少なく、雛の生育は100羽中2、3羽。体重は劣り、成鶏が虚弱であることは一般に知られたことである。これらの不成績は飼養方法が悪いからだと言うが、我が国の養鶏家は忠実に実践を積み、また、書籍で研鑽を積んでいる。英国で行われている飼養・管理法を踏襲していることは疑うべくもない。しかるに失敗するという事は当ドルキング種が我が国の風土に適していないことの証明である。

上述したように鶏は気候風土によって、その特徴が發揮できるか否かは顕著で、一点の疑いがない。従って国土、地方に適する鶏種があることは明確な事実であるので、我が国に適する鶏種は何であるかについて私は大いに所信を述べたい。

我が国の領土は蘆茅が広く潤していると言っても北方は寒さが厳しく、風がきつい北

海道がある。南隅は琉球島を隔てて暑さが厳しい新領土台湾がある。気候風土が均一でないので、我が国全般にあてはめることはできないが天資強健な交趾種、ブラマ種、プリマスロック種は良く寒暑に耐えるので各地で飼養するのに適している。レグホン種、アンダルシャン種、ミノルカ種は寒地よりも温暖な東海東山山陽道と九州四国に適する。ウーダン種その他フランス種は寒い地方で飼養すべきである。ハンボルク種は原産地が寒国であるが温暖炎暑の地にもよく適する。その特長である多産は他種が及ぶところではない。

我が国においてはこれらの鶏種はそれぞれ寒暑の適否を考えて、完全な方法で飼養することは有益である。しかし、私がこの種は寒地に適していると言ったとしても各鶏種の資質と成育良否の如何は、暖地に移してその飼養がよければ好結果を得ることはないことではない。

私は10数年来、我が国における肉卵需用者の要望と養鶏家の内容を達観してみた。すると、肉用または卵用専門の鶏種を飼養してこの要望と養鶏家自身の利益を期待することは到底できないことがわかる。養鶏家は必ず肉卵兼用種を飼養すべきである。ウーダン種とプリマスロック種が適する鶏種である。肉用、卵用として純粋種を飼育することは大変不利である。なぜなら純粋種は雑種に比べて常に成育が悪いことは、経験のある養鶏家が広く知るところである。よって、私はこのことに関して最も重きを置くのはその気候風土に適した肉用種と卵用種の雑種鶏であるとする。これをもってすれば肉卵需用者の要望に応じられると共に養鶏家自身の利益を計画することができる。以上のことをもって私は肉用種と卵用種の雑種鶏が最有益な鶏種であると断言する。

しかし、私たち養鶏家はその事業で世の中の責務を果たそうと欲する者はその事業の前途が永遠に続くために大きな道義を持っていることを忘れてはいけない。それは、雑種作出のことである。例えば世間の需用に応じて、または自己の利益の為に肉用種と卵用種を交配して肉卵兼用種を作出する際に親鳥の一方の長所（肉用又は卵用の効用は肥肉又は多産）のどれを比較すれば良いかを見極めて進歩した鶏を作出するのであるが、多くは十歩百歩を譲るものである。これは正に退化の現象ではないか。このように養鶏の生業を営む者は鶏種の進歩退化に喜憂するのであるが、純粋種が絶滅しないことに努めることは養鶏家の道義であり節操である。私は、有益な雑種の作出において実例を引いて読者に語ろうと思う。現在我が国の家禽界において最も多く飼養されてようになった一品種は我が愛知県が作出したうすけ交趾（別名 名古屋交趾種）である。この鶏種は有益で一般に歓迎されている。この鶏種は明治7、8年の頃名古屋において英国産パフコーチン種と地鶏とを交配して得た雑種である。パフ交趾種は肉用に属し、地鶏は劣等ではあるがその効用は産卵性である。これを持ってわかるように肉用種と産卵種との雑種は疑いもなく有益であることは私が前述したことを証明するものである。しかし、我が愛知県人は有益な雑種を作出して多くの利潤を享受したが純粋種を退ける悪い習を生じた。各養鶏家の雑種は雑交に雑交を加えたものであるので、その業に優れた者で

も殆どその識別に苦しむまでに至っている。このために鶏種の退化は争うまでもない事実である。私はこのことを深く遺憾とし、切に純粋種の飼育に熱中するのである。

私がなぜ純粋種の飼養に熱中するのかを読者に告げたい。純粋種はその作出後に多くの年月を経て、事物の關係に触れて数々の消長をしている。従って自然の道理によって資性が固定され、急激な進歩が無い代わりに急速な退化もない。このことは老齡になってもその肥肉を保持し、また8、9年の長きにわたって産卵を連続する。これに反して雑種はその進歩も急激であるが、その退化も急激である。その肥肉を保持して産卵を連続する期間はたかだか3、4年である。以上は私が蓄積した経験によるもので、強く変わらない所信である。

#### 4 飼養に適否の土地

鶏を飼育するにおいてはその土地の適否が肥肉・多産の二大要点に直接を及ぼすことは明瞭な事実である。さらに鶏の健康を害し、甚だしい場合は飼養の全群を斃死させる悲境に陥れることになる。従って、その適否の選択は創業時の際に詳密な精査を遂げなければならない。また養鶏は一つの生産業であるので鶏の飼養上最良な土地であっても飼料や生産物の運搬の交通の便がよくなければ収利の点において一打撃を蒙り終には不適當な土地と化することになるので、予め地理上の利害は大いに研究することが必要である。

[適切な土地] 四期毎に季節の激変なくかつ降雨が少なく、空気の流通がよく、乾燥しやすい土地を良しとする。特に地面は細砂と粘土の混合で地味が肥沃。養鶏場の近くで蔬菜を栽培する畑があること。飼養上一時も欠くことのできない清浄な飲用水の供給があること。夏期の渇水期に際しても飲用水の欠乏がない土地がよい。

多数羽飼養者は繁盛な都市の近傍に養鶏場を設ければ、その飼料の確保と肉卵販売に便利がよい。又は海の近く、魚市場に接近する土地は魚屑を得るのに容易であるので極めて良い土地である。

[不適な土地] 年中陰鬱で湿気が多く、日光が直射しない土地。又は四季を通じて避暑、防寒の守りの無い土地。あるいは河川に沿って浸水するところがある土地。または痩せ地で不毛な原野のような土地は全く養鶏に適しない。鶏の滋養食料である獣肉骨及び河海の魚鱗を得るのに不便なところは養鶏を行う地でない。

若しも読者が、私が不適と断定した土地で、強いて養鶏を行へば如何なる現実の災害を蒙るのか疑問に感じることがあると思うので、私はそのことについて簡単に答える。

前項で例示した不適な土地で養鶏を行えば、成鶏の健康を害し、そのために肥育が不十分又は産卵数の減少は勿論である。雛の成育は全く不良となり、伝染病の襲来と伝搬が速やかに起こる。特に湿気が甚だしく、日光の直射が無い土地では鶏の多くは脚鱗病と脱羽病を併発し、ループに悩むことになる。最終的に収利が少なく損失が多くなる。

## 5 鶏舎の建築方向及び構造法

鶏舎の建築方向は鶏の健康とその他種々の利害得失に大いに関係する。従って、先ずこれを詳しく述べる。最良な方向は南向きに建造することである。次に良いのは東向き。この2方向に建築すれば鶏の健康が保たれて大いに利益を得る。もしも雑多な支障によってこの2方向に建築することができない場合は西向きとする。北向きは非常に不都合であるので決して建築してはならない。南向きの鶏舎は終日太陽光線の照射を受けるので土地の乾燥が速やかである。冬春は温暖を保ち、盛夏は南風の涼気を迎える。よって極めて優れている。東向きも南向きに次いで優れている。冬期の厳寒期に太陽光が射入することによって舎内が温暖になり、鶏の健康を増進することは疑いない。西向きは冬期の厳寒期には正午を過ぎないと太陽光の恩恵を受けることができないので、朝の寒気に接触して凍傷に罹り、鶏を害することがある。また夏季は錐尖（きりさき）のような夕陽のために舎内は燃えるような暑さになり鶏が苦悶することが明らかである。これが原因で疾病を惹起するのは稀でない。北向きは炎暑の気候に合い、外見上頗る優れているようであるが、実際は著しくお蔭を蒙るようなものではない。年中殆ど太陽光線が直射しないので舎内はうっとうしく、地面は湿潤である。殊に降雨が多い時はドロドロになり不潔である。また冬期から中春の間は強い北風が侵入し結氷が融解しないために寒冷が甚だしい。これ等の不良な種々の原因で収容する鶏は運よく疾病に罹らなくても体重は凋落して且つ毎回休産し憔悴して痩せ衰える惨状を呈する。

〔鶏舎の構造〕 我が国の農家は昔から鶏を2羽から3、4羽を放し飼いし、これに対応する鶏舎があったりなかったりした。しかし近年10数羽を飼養する者は家の一隅を代用するか、軒先または漆壁の一部を利用した簡便な方法で鶏を飼養している現実がある。しかし、私がここで述べようとする鶏舎の構造は「放し飼い」と「柵飼い」の違いを問わず、羽数にして30羽から50羽の鶏を収容しようとする鶏舎である。

北米合衆国家禽学者の著書によると同国の鶏舎の構造様式は多様で規模も大小がある。その完全無欠なことについては今さら述べるまでもないが、構造材の多くは木材と鋼材、レンガ、ガラスなどである。そのため多額の建設費を要するので、これをそのまま模倣して我が国の養鶏界に応用しようとする大変な困難なことになる。ここに、何故我が国では米国の鶏舎構造を応用すべきでないかについて私の所信を述べる。最近、我が国でも物質的な文明が急進しているが、建設材料の価格も高騰の一方で、時には木材は在庫が無い状態になる。また鶏舎にレンガ、鋼材、ガラスを使用したら、民衆には全く理解されないことになるであろう。これらのことが完全無欠な米国の構造法を用いることができない理由である。

我が国の養鶏界でもっとも進歩している我が愛知県の養鶏家は、鶏舎構造に便益な方法を発明するために10数年来苦心した。その結果、経費が少なく、鶏の健康を保ち、長年使用できるという3大要点を基礎としてほぼ完全な鶏舎構造を考案した。今では当県以西の養鶏業者は次第にこの構造法による鶏舎を建設する傾向を呈する。我が国の諸

般の実状から推察すると、鶏舎構造の要は、建築費が少額で、長年の使用に耐え、しかも時々修繕の必要がないこと。さらには防寒避暑の対応に優れ、鶏の健康を害さないこと。併せて害獣を防ぐことができることである。事実として、我が愛知県が案出したこの鶏舎は上述の条件に合うものである。これについては次に列記する。

(甲) 鶏群30羽を収容する鶏舎と器具を第1図に示す。これは名古屋コーチン種30羽内外を収容する鶏舎の全容である。長さ3.6m、奥行き2.7m、高さ1.95m。軒柱から135cmのところに戸締を設ける。内部は埤と巣を設け、外部には食器と飲水器を装備する。この建築法を割間造という。第1図(い)は入り口。(ろ)は戸。戸は90cm戸2本を開閉する。各戸尻には壁を付ける。(は)は壁。(に)は窓。窓は鶏舎の前後に設ける。前面は上敷居から9cm~12cm高の所とする。(ほ)は砂浴場。(へ)は柵。

第2図に鶏舎裏面を示す。(に)は窓。土台から約12cm以上の所に設けるのが良い。窓の幅は30cm。夏期はこれを全て解放し、冬期は密閉する。

第3図は鶏舎内部の装置と飲食器の配置を示す。(イ)は埤。(ロ)は巣。(ハ)は飲水器。(ニ)は食器。(ハ)は牡蠣粉容器とする。鶏柵の入り口は細い木材で戸○の形を造

り、これに割竹を適宜に打ち付けヒジをもつて保つ。幅は90cm、高さは柵と同じ。入り口は開閉自在になるように第1図(い)に示すように上部から鍵を垂下げ、その先に錘をつけた仕掛けとする。埤は第3図(ニ)のように鶏舎内部に設ける。幅54cm、長さ3.6m。体重が軽い産卵種を収容しようとする時は地面からおおよそ60cmのところ板○を張り、第4図のように竹棧2枚を並列する。肉用種か兼用種のような体重が重いものには、湿気の心配のない舎内であれば地面に直接竹棧を並べる。もしも湿気の心配があるなら地面から30~36cmのところ竹棧を設けること。竹棧の製造は極めて簡易である。長さ90cm、幅12cm、厚さ2.1~2.4cmの材木3本を均等に並べ、これに割竹を2,3寸間で釘を打ちつける。巣は石炭○入りの空き缶を横置きにし、中に切藎を敷くこと。食器は木皮のような厚い板を用いて、長さ39cm、横18cm、深さ9cmの函を作り、図のように中央を横断する木を付けること。これは鶏が脚で函中の餌料を攪乱することを防ぐためである。飲水器は容量がおおよそ3.6ℓの○○な陶器を用いる。30羽の鶏群に適応する砂浴び場は75cmで高さ21~24cmの底のない箱を作り、第1図(ほ)に示したように運動場の一角を選び、地下30cm内外を掘ってこれを置く。上部は適当な方法で雨露を凌げる屋根を設ける必要がある。その砂浴び場に入れる砂の量はおおよそ箱の容量の5,6分目とし、これに少量の石灰を混ぜること。30羽内外の鶏群に必要な運動場はおおよそ10㎡を用意すれば十分である。その外周には柵を設ける。柵の材料は木竹と針金とする。これらの材料は各地方の状況により大いに価格の高低があるので安くて耐久力のあるものを選び建設するのがよい。柵の高さは種類により一定しないが、大別して産卵種は135cm以上

165 cmとする。肉用種と肉卵兼用種は120 cm以上135 cmとする。降雨雪時または運動場の地面が湿潤な時は鶏糞の遺棄や鶏の健康を損ねる恐れがあるので、鶏体が雨雪に濡れないように軒下内に收容する必要がある。これに用いる柵は左右両側の柵を動かして自由に開閉できるようにしておく極めて便利である。

#### (乙) 鶏群45羽を收容する鶏舎と付属器具

第6図に示す鶏舎は1室の鶏群45羽を收容するもので、近年多数の飼養家が採用する構造である。それはこの鶏舎は他の鶏舎に比べて建築費が安いことと取扱いが利便であることにある。

この鶏舎の1室は長さ180 cm、奥行き180 cm、高さは195～210 cm。奥行き90 cmのところ、即ち中央で割間とする。前述(甲)の鶏舎と同様にここに戸を設ける。また、入り口、窓、埒は同様の位置に設けるが、窓の上下の幅はやや広くし、39～42 cmを適当とする。埒の幅を90 cmとして竹棧も幅105 cmのものをを用いる。巣箱と食器はそれぞれ3個ずつ備える必要がある。砂浴び場は舎内の前部左側または右側に設ける。90 cm角の箱とする。飲水器の容量おおよそ5.4ℓの陶器製とする。運動場は13.2㎡必要である。その他のことは総じて前述(甲)の鶏舎と異なる所は無い。

多数の鶏群を飼養するには図6に示すように鶏舎を連続して建築すること。

## 5 種鶏選択

鶏の繁殖上、その種類の退化を予防し、さらに進んで改善の効果を得ようとするなら、種鶏の選択はその主要な手段であり大いに考慮すべきである。

種鶏とすべき雌雄を選択することは鶏種を問わずその要点が異なることはない。雄は各部の要点が整然とし、発達が良好でかつ筋骨逞しく、発声が清澄。雌鶏を愛する念が強く、健康であること。以上は既定の概説で誰もが肯定するものである。しかし、私から見ればまだまだ満足するのに足りない感がある。なぜならば、一般的に家禽類は幾日月を経て成禽になるので、その間に外形と羽毛の変異を来し、甚だしいものは4、5回の換羽をする。雌雄を間違えることがあるのは養鶏家が均しく経験することである。しかもその変化は雛の個体により一様ではない。例えばふ化後3週間の時期は外見と羽毛は雌のようであり、6、7週の頃に至って確実に雄となる。あるいは種々の外観を呈するものがある。その雄鶏が成鶏になって幸いにも完全無欠の雄になったとしても私はこれを種鶏にすること決してしない。なぜならば、成育中に変化するものは必ずその子孫にも遺伝し、初期の雛の雌雄の鑑別に大きな障害となる。従って私はふ化後2週間から4週間以内に雄と判定できるもののうち、成育外見が変わらず優良のまま成鶏となり、体重その他の要点に欠点がないものを選択する。種雄として最も忌むべきところは、交尾の頻度が非常に多いものと鶏体が肥満するものである。前者は交尾行動の頻度が多いために雌鶏を疲労させ、ついには雌鳥が疾病に罹ったり傷を負ったりする。後者は交尾

能力が無いために交配した雌鶏が産卵した卵はふ化しないのである。

種鶏用雌鶏の要点は殆ど雄鶏と異なるところはないが、雌鶏の特性として着巢に注目する（着巢の念を有しない鶏種は除く）。大卵を連産し、その卵の形状や尖部が決まり事にかない、卵光が堅固で光沢ある卵を産むことを必要とする。雌鶏として不適なものは脂肪過多な鶏である。脂肪過多に陥った雌は時々産卵するが、交尾の際に多くは受精しないために孵化用の卵には適しない。前述した脂肪過多に陥る鶏はコーチン、ブラマ、プリマスロック、シャモの鶏種に多い。これを検知する方法は腋下の大血管に沿って人差し指大の脂肪が凸起するのを見ることである。また、親指と他の3指で臀部をつかみ、一塊の肉のような厚固な脂肪が凝結したものがあるかを見ることである。その他には、羽毛が光沢を放ち、皮膚が白色または淡黄色のものは肥満の徴候である。

種鶏として雌雄共に大いに注意を払うべきものは遺伝に属する疾病である。一般的に遺伝病は仮に治癒したとしてもこれを根底から除去しなければその弊害は子孫に及ぶことになる。これは大変恐ろしいものである。これに関係する疾病名を列挙すると、痺麻質斯（リウマチ）、痔疾、○病、○羽病、白○病、昏倒病、皮膚病、貧血症等である。

家禽の子孫はその形質の多くは雄に酷似するので、種鶏の選択に際して重きを雄に置くことについては、私があればこれ言うべきことではない。雌鶏においては繁殖上の直接的な結果が出る。子孫の強弱、体躯の大小、産卵の多寡などに影響を及ぼすことがあるので選択する上で決してないがしろにしないこと。私が切に思うことは、養鶏業の成否の如何は種鶏選択から始まっているということである。

## 6 種鶏配偶数

雄鶏と同居させない雌鶏の産卵数と卵量は雄鶏と同居する雌鶏の産卵数と卵量に差異はないものである。また、私はその滋養成分の差異について某学者に聞いたところでは「少しも異なるところはない。」と言う。以上のことを持って私達はつぎのことを主張する。食卵採取の目的で、20羽以上50羽内外の一群の雌群に同居させる雄鶏は1羽にし、この雄に雌鶏を統轄させれば足りる。特に雌鶏の健康保持の観点からすると体重の軽い雄鶏が良い。一方、種用とする鶏群の配偶については非常に慎重を期すべきである。その程度を明らかにしなければ、知らず知らずの間に大失敗を招くことがあるので、十分な注意が必要である。提案する種鶏の配偶数は内外の学者や養鶏家の間では議論があり、結論は一つではない。しかし、多くの意見は鶏種を問わず、1羽の雄に3～6羽の雌を配することが適当とするものである。しかし、私の経験から適当と確信するのは次の割合である。

肉用鶏種 ブラマ、交趾：1雄8雌

肉卵兼用鶏種 プリマスロック、ワイアンドット、ウーダン：1雄8雌

卵用鶏種 レグホン、ミノルカ、アンデルソン、ハンボルク、ホーランド：1雄12雌

## 軍鶏種 シヤム：1雄3雌

上述した各鶏種の配偶数について解説すると、肉用鶏と肉卵兼用鶏は卵用鶏に比べて交尾の頻度が少ないので卵用種と同じ数の雌を配するべきでない。私はあるとき、名古屋交趾種で種卵を得る目的で1羽の雄に20羽の雌を配して、卵のふ化力の程度を試みた。その結果、平均して10個の種卵に対して7個がふ化した。これに対して私の年来の方針である1羽の雄に8羽の雌を配した種卵のふ化力は非常に好成績で、卵形の不具や卵殻の異色なもの及び換羽期の産卵しない時を除いて、無精卵を産卵することはなかった。卵用鶏は概して〇〇敏活で精力が優盛であるので1羽の雄に12羽の雌を配することが適当である。軍鶏は闘鶏用種の由来であることから、強健で勇猛であることは他種が及ぶところでない。しかし平常の性質は大変沈着で交尾にふけることがないので、多数の雌を配しても種卵の多くはふ化しない。従って、1羽の雄には3羽を超えない雌を配すること。なお、闘争心が優等な雛を得ようとするなら1羽の雄に1羽の雌を配するのが最良である。これはその道の秘訣として伝えられているところである。

## 7 種鶏に給与する食餌

種鶏に給与する食物は良味で、常に動物性餌料を投与することが必要である。殊に柵飼鶏にはこれを欠乏させてはならない。なぜなら、産出する種卵のふ化力と雛の資質に大いに関係するからである。放飼鶏の種卵が比較的ふ化力に富むのは、雑木林や畑で動物性飼料を啄食するからであることは理解しやすい。同じように家鴨で、池沼や水田に放飼されるものは種卵百数個中に僅かに1個の不ふ化卵が出るのみである。一方、柵内で飼養され、野菜のみを与えられ、動物性を欠く飼料で飼育される鶏が産出する種卵の中で有精卵は半数以内であり、しかも有精卵でも途中で死亡するものがある。加えるにふ化した雛は非常に虚弱である。鶏と鴨の繁殖期に動物性餌料を与える必要があることは誰もが知ることである。

私が単に「動物性餌料」と前述したものは河海の魚介類と魚屑、獣血肉骨、昆虫の類を総称したものである。土地の状況によるが、養鶏場が河海に近い場合は魚介類を得ることができる。山野林業の間に養鶏場が存在する場合は昆虫類を求めることができる。都会に近い場合は魚屑、獣血肉骨を入手するのに便利である。以上のように労費が少なく、入手しやすいものを選んで給与する必要がある。昆虫類は数羽の鶏に与える量を集めるのはさほど困難なことではないが、多数の鶏群を飼育する場合は到底不可能なことである。ここでは昆虫類を種鶏に啄食させることは可能であると記述するのみにする。

次に私が種鶏に与える各餌料と動物性の給与割合を示す。

種鶏1羽当の1日給与量 全体を10とした割合	餌の種類	物品の名称
4.0	動物性餌料	田螺、稚魚、乾魚、魚屑、獣血、獣肉、 獣骨、蚕蛹

3. 5	糠餌	米糠、小麦皮、麦粉、大麦糠、粟糠、豆腐殻、 飴粕、小米粉、粃
1. 8	粒餌	小麦、大麦、粃、玄小米、裸麦、藁
0. 6	青菜	搔葉菜、大根葉、小松葉、白菜、休菜、甘藍 (キャベツ)大高菜、壬生菜、三島菜、山東菜
0. 2	牡蠣	牡蠣殻破末
合計 10. 0		

これは私が久しく実行している餌料であるが、これがどこの養鶏場にも適応できると言うべきでない。それぞれの地方により餌の値段の高低があるので、個々の問題を解決し、より滋養に富むものを探求して給与すること。更に労務費が加わることを避ければ大いに成功する。

本章の練餌調整法と動物性餌料、粒餌投与法は親鶏調整法及び投与法の章に細説するので参照すること。

## 8 種卵有効期間と種卵貯蔵法

種卵の有効期間すなわち種卵がふ化力を有する日数については、これもまた学者及び養鶏家の説が一つではない。しかしその多くは産後3週間程度である。私はこの説に絶対的に反対するものではない。なぜなら、単に種卵は3週間ふ化力を有するということであるのである。これは大変に漠然としている。また、これは経験の無さを表すところである。

種卵がふ化力を有する日数に関して、私の多くの経験から意見を述べる。種卵がふ化力を有する最後の日は前述のとおりであるが、それは全ての種卵に当てはまるものではない。また、四季によってその効力の期間には差異がある。ブラマ種やコーチン種のように躯体が肥大な種類においては、種卵の効力は3週間を保つ。レグホン、バンタム、ハンボルト、地鶏のような体格が矮小な種鶏においては産卵後18、19日である。これは概して大型種のふ化日数は小型種に比べて多くを費やすので、種卵の有効期間もまた長いことは自然の道理である。また季節によってふ化力の長短があるのは言うまでもないものである。最も長い期間を保有する季節は中春から初夏にかけてと秋季である。夏期と冬期では、ふ化力保有期間はおよそ2日短縮する。特に梅雨と夏期に、霖雨が長く続き、空気が湿潤し、蒸し暑さが甚だしい時は種卵の排○が不完全で、湿気のために卵殻の外側に細微な水滴が付着する。このような場合はその種卵10個中8～9個はふ化力を失っている。厳寒の季節は乾湿の如何にかかわらず、種卵は摂氏零度以下の外気に触れると凍死を免れない。

上述は単に種卵のふ化力に関する所論のみである。種卵の産卵後の経過如何が雛の成育に及ぼす結果について論じないのは私：養鶏家としてその責任を果たしていない。よって、私はそのことについて進んで意見を開陳しようと思う。養鶏の経験が深い読者は、

種卵は産卵後の経過如何に関わらずふ化力を有する限りは、ふ化した後の雛の成育に影響があることはないと言う。私は、決してそうではないと否定する。種卵が仮にふ化力を有していても産卵後 10 日以上経過したものは、雛として生まれても虚弱なことは免れない。ここに分かりやすい一例がある。試しに産卵後 3 日の種卵と産卵後 10 余日の種卵を同時に巣鶏に抱卵させると、前者は 20 日間でふ化するが後者はふ化に 22～23 日間を要する。しかも一斉に卵殻を破碎して○○の声を発する能力がない。これは雛が虚弱なことを表すものである。もしも読者が多数の雛をふ化させたいと思うのであれば、産卵後 1 週間以内の種卵を用いるべきでない。可能であれば産卵当日のものに勝るものはない。しかし 1 回に幾百千の雛をふ化させようとするにはこれは非常に困難なことになる。稀有の大養鶏家でなければできない。従って 1 週間以内の種卵を用いて同時のふ化に当らせるべきである。これは私が多年の養雛ふ化において得意とするもので、重大な秘訣に属するものである。

種卵貯蔵法は最長 3 週間を超えないことを守るという非常に簡単なことである。ふ化力に支障が少ない中春から初夏の候と秋季は、空気の流通がよい函内または籠に收容すれば十分である。しかし、梅雨と夏期の霖雨が長く続き、空気が湿潤して蒸し暑さが甚だしい時は乾燥した一室を選んで○上に藁を敷き、切藁または糶糠を散布して並列に置くこと。更に外気の湿潤を防ぐために蚊帳を吊ることが完全な方法である。炎暑旱天の時は空気の流通のよい籠に收容し、室内の清涼な所に安置すべきである。厳冬の候においては、種卵は前述したように摂氏零度以下の寒気に接すると必ず凍死するので、産卵後温熱が去らない内に採取し、函中に收容し空隙を糶糠で埋没し、上部を包被して閉塞した室内に貯蔵するのが便法である。殊に暖炉が設備された室内に静置すれば最良である。

## 9 ふ卵方法と注意

母鶏ふ卵をさせようとするなら、雌鶏が産卵を休止した後およそ 24 時間以上を経過しなければ着巢の意欲が生じないことを留意すべきである。抱卵の意欲が薄弱な時に巢に入れると種卵を破碎することがある。または、資質が敏○で荒暴なものは十分に種卵を被保しないことがある。このような故障や悪癖があるものは母鶏としての職分を果たすことができないので母鶏として採用してはいけない。必ず、温良で着巢の意欲と愛情の強いものを選ばなければならない。

私たちが常に母鶏ふ化をするときに使用する器具は上図に示す「抱卵籠」と称する直径 36 cm、高さ 27 cm の円形で、薄い扁平な割竹をもって四つ目編みとして製作したものが最も便利である。ある者は箱又は○の類のものでふ卵させるのを見るが、その製作費と取扱い易さにおいて「抱卵籠」に劣る。晩春から初春の間にふ卵させようとする時は、この「抱卵籠」の外部を紙で張り、その中に切藁を 2 重、3 重にして中央をやや低くして巣とし、母鶏を蟄伏させる。その上部は藁（わら）藁（むしろ）の類で被う。

厳寒の候には鶏舎内の○上又は高所に置き、抱卵させる。特別に保護をしないと往々にして寒気が侵入し、卵内の雛が凍死することがある。そのため母鶏を蟄伏させた抱卵籠は鶏舎内の地上に静置するのが最良である。地上には藎の類か糲糠を敷くこと。

これに反して晩春から初秋に至る暖和熱暑の際は抱卵籠の外部に何物も貼り付けず、籠の上部は○○又は竹さなのように空気が流通しやすいものを用いることを良とする。また、籠を直接地上に置くときは湿気の侵襲があるので、舎内に○を設けてその上で抱卵させる必要がある。以上のような方法で1回に2千～3千の雛をふ化させようとすると広大なふ卵舎を必要とする。私はその業者の苦痛を感じるので、これを解決する最良の方法を次に記述する。

狭い鶏舎で多数の雛をふ化させるためには、1鶏舎内に抱卵籠を出入りさせるのに十分な間隔で4～5段の棚を設け、各棚に抱卵籠を並列して母鶏を蟄巢させる。但し、夏期は空気の流通に適当な窓を設ける必要がある。また、冬期は冷気の侵入を防ぐために古布の類で各棚口を蓋うこと。

母鶏一羽の抱卵数は各自その所信により差異があり一様ではないが、私の多年の種鶏の実験では1, 875g内外の母鶏に普通52.5～60gの種卵14個を抱卵させる程度とする。なお、母鶏の大小によって考慮すること。我が国のある理想の養鶏業者が1, 875g内外の母鶏に20個の種卵を抱卵させたことがある。このように多数の種卵を抱かせた時はふ化の日数が延びると共に雛の健康を期待すべきではない。この方法を行う者の多くは自らが育雛を行わないものであることが常である。従って雛の成育の如何は彼自身が少しも痛痒を感じないので、そのようなふ化を行うのである。

初めに母鶏を蟄巢させようとするならば夜中にこれを行うのが最も安全である。期が熟し抱卵させようとするならば、先ず巢を舎内に配列し、種卵を各巢中に分配し、その後母鶏を着巢させること。母鶏の蟄巢を昼間行おうとすると抱卵の意欲が絶たれたり又は巢の○換えを悟って巢中に安静しなくなり、種卵を破壊することがある。母鶏が抱卵を始めて4日後に検卵器で無精卵を取り除くこと。もしも検卵器を有していない時は抱卵後6～7日後に人工（人間の手）で行う。人工で無精卵を見抜く方法は大変容易であるが、十分な経験がないと熟卵を取り除くという失敗があるので、先ずその技に精通することが必要である。人工で無精卵を見抜く方法には2通りある。一つは、晴天の日に上図のように光線の直射に接近して、種卵を左手に保ち鈍端を上部にし、右手を種卵の上部に副えて透かして見る方法である。もう一つは、暗黒の室内で蠟燭（ろうそく）か電燈の光で前述した方法を行う。おおむね、熟卵は鈍端の一部に半月状の透明部分がある他は炎暗色の中に真赤な血線が恰も蜘蛛糸のようにひろがり、その中央に初期胎児が蠢動しているのを見る必要がある。これに反して卵が全部透明な時は無精卵であり、ふ化しないものである。稀に熟卵ではあるが鈍端が暗色で半月状の透明点が卵の側面か尖端にあるものがある。これは極めて異例のものである。

抱卵後14～15日を経過すると胎児が卵中で死亡するものがあるので、選抜するこ

と。その方法は前述した無精卵選抜法と同様である。胎児が死亡したもの（死籠卵）を透見すると淡黄濃色が常であるが、時には茶褐色のものがある。特に卵を動揺させるに従って波動を起こすものは必ず死籠卵である。赤褐色の熟卵を検卵する時は中期胎児が徐々に動くことを確認すべきである。

母鶏が抱卵を開始して雛がふ化するまでの期間はおよそ夏秋の候は20日内外、春冬の候は21日から23日に及ぶ。しかし、夏秋の候と言っても産卵鶏、矮鶏、肉用鶏ではふ化期間に差異がある。レグホーン、ハンバーグ種、矮鶏各種では夏期は19日目にふ化する。しかし、ブラマ、交趾種は22～23日に及ぶ。一般に大型種は小型種に比べてふ化期間が2日～3、4日多くなる。また、ふ卵鶏舎の構造如何によっては冷熱の差がある時はふ化期間が同じにならないのは論を待つまでもない。また前述のように種卵の産後経過日数によってはふ化期間に長短があることは私が確信するところである。

抱卵している母鶏に飲食を給与することは一見非常に容易なことのように思えるので人々はこれを軽視して、細密な注意を払わない。私はこれを見て、これは大きな誤りであると思う。母鶏ふ化における失敗の多くはここに原因があるものである。私はかつて英米の家禽書に書かれていた方法、すなわち、巢中に飲食を入れた餌槽を入れて母鶏が随意に飲食させることを実行したが、それは煩雑で労力を浪費する。また数々の餌槽を覆いのついた巢中に入れることで、餌は蒸れてかえって被害を蒙ることが少なくなかった。そのため、直ちにこの方法を停止し、次の2方法に従うことにした。

- (1) 母鶏が少数の時は第9図の伏せ籠に伏せて飲食を与える。
- (2) 母鶏が多数の時は1柵内に放ち飲食を与える。かつ、○で砂浴場を設置して少量の殺虫剤を投入する。

寒冷の候に、母鶏が飲食に時間をかけていると種卵が冷却して凍死するおそれがあるので、飲食の時間はおよそ20分を超えないようにすること。夏期と初秋は40分～1時間、巢外で飲食したり砂浴びをさせたりする。母鶏に与える餌は粒穀に限るものとする。小米、粉米、粟、麦、粳、小麦、玄米が良い。

母鶏が抱卵する期間が満了し、卵中の雛が軟弱な嘴頭で声と共に卵殻の1小点を破る時、これを「嘴上げ」と言う。この「嘴上げ」を行った時からおよそ20時間以内に卵殻を破開して、ふ化を完了する。この場合、母鶏に飲食を与える時間に至っていても必ず、給与を中止して抱卵に全力を傾注させるべきである。もしもあえて巢外に出して飲食を与え、再び巢内に復帰させたときは、ともすると「嘴上げ」の種卵を破碎し、または温度が低下するために未ふ化の雛が絶命することが多い。卵内の雛が最も弱い時期は正にふ化前の数時間である。もしも多数の母鶏が抱卵中に、3、4個ないしは10数個が同じ時期に「嘴上げ」をすることになった場合は、1羽の母鶏または2、3羽の母鶏を巢に留まらせて、「嘴上げ」中の種卵をその母鶏の腹中に運び込み、まだ「嘴上げ」していない種卵と交換する。先行して飲食に行った母鶏が飲食を終えて巢に戻った時は「嘴上げ」がない種卵抱かせ、次に巢に留まらせて母鶏を飲食に出すのが大変に良い取

扱い方法である。雛がふ化した後およそ3時間が経過すれば、その卵殻を除去する必要がある。もしこれを除去しなければ卵殻の一端が未だふ化しない卵を覆って雛を窒息させるか、あるいは雛が卵殻を破砕する障害となり、終には死に至らせることになる。これは、老練な養鶏家が往々失敗するところである。但し、卵殻を除去する際には必ず母鶏を巣から隔離せずに、静かに右手を巣に留まる母鶏の腹部に挿入し、ゆっくりと卵殻を探して出すこと。

雛が「嘴上げ」をする時、または卵殻を全部破ってふ化する時、母鶏が巣の中で身体を左右に動かして卵殻を種卵またはふ化中の雛に密着させる母鶏がある。このような母鶏は先天的に雛のふ化に熟練していない母鶏である。そのため、多くの卵を破砕し、雛を殺すことになるので、このような個体は退かせなければならない。ふ化した雛は温厚で愛情の強い母鶏に托する必要がある。雛はふ化後、春冬では30時間、夏期では20時間巣の中に置き、羽毛が乾燥し食欲を表すのを待つこと。その後には育雛函または母鶏と共に外に出し、最初の給餌を行う。

母鶏の抱卵中に最も注意することは1つ2つではないので、次にその要点を列挙する。母鶏が抱卵中は昼夜に2～3回、抱卵の状況を監視して、怠けている母鶏、疾病の徴候を表している母鶏、食卵癖のある母鶏を必ず取り除くこと。また、十分に種卵を抱えられないものは巣を改造し抱卵上の障害を除くこと。夏秋の季節には害虫の発生が甚だしいので、少なくとも隔日毎に母鶏が飲食中に巣の切藎を打ち払うこと。また、およそ5日目毎に母鶏の身体と巣の中に除虫剤を散布すること。春冬の季節でも破卵又は脱糞で巣の中が汚染させるので、5日目毎に前述した同様の方法で切藎を打ち払い、常に巣の中を清潔に保つこと。雛のふ化が近づいた時に、たまたま母鶏の抱卵の意欲が断たれた時に着巢の意欲が出始めた鶏と交替させると、その母鶏は雛が卵殻を破砕する時にも啞然とし、少しも愛情を惹起させない。ふ化した雛が先天的に適切な動作をしない為に、往々雛を死滅させるものがあるので、よく注意すること。そのため着巢の意欲が出始めた鶏でない母鶏を選ぶこと。もしも、着巢の意欲が出始めた鶏しかいないのであれば、数回抱卵を経験した老鶏を選ぶこと。

## 10 母鶏続坐

母鶏続坐とは1回雛をふ化し、続けて同じ母鶏が2回もしくは3回以上抱卵することの総称である。

母鶏が2回もしくは3回の続坐をしようとする意欲があれば、先ず母鶏の衰弱状況と着巢の意欲が衰弱しているか否かのこの2点をよく観察することが必要である。例えば、2回の続坐で、母鶏の衰弱が甚だしい時は十分な温度を種卵に供給することができない。また、着巢の意欲が衰弱している時は飲食か砂浴びの念に駆られて常に巢外に出ようとし、抱卵を省みないことになる。

母鶏を続坐に供する時期は、雛が卵殻を破砕しその羽毛が少し乾燥した時に、雛の1

羽もしくは2、3羽ずつを約1時間間隔で順次他に移す。同時に次の新しい種卵と交代させること。しかし、続坐しようとする母鶏が他の場所に移した雛の鳴き声を聞いた時に母鶏の情愛が育雛に移り、抱卵の念を断つことがあるので、予め注意をすること。このようなことで母鶏に支障が無い時は3回、4回と続坐させることができる。

続坐する母鶏の着巢の意欲を長く存続させるためには、この意欲に反することを可能な限り忌避すること。しかも毎日与える食餌は最良の滋味であること。穀類の外に焼鮫と生魚獣肉を与えること。但し、着巢中の雌鶏は魚獣の肉と多量の脂肪を混合した食餌は概して好まないことが常である。そのため、魚獣肉を啄食させるには人力で嘴を開き、嚙下を強制させること。

私はある年の早春、母鶏が何回続坐するのか試験をするために、常に健康で着巢の意欲のある淡色ブラマ種の雌2羽、名古屋コーチン種2羽、黒色ミノルカと名古屋コーチン種との3代雑種1羽の計5羽の母鶏に抱卵をさせた。ブラマ2羽と名古屋コーチン1羽は3回続坐して大いに衰弱し、抱卵の役に立たなくなった。名古屋コーチン1羽は4回目の続坐の初めに発狂の様相があったが、それでも抱卵を継続した。しかし4回目の16日目に抱卵の意欲が断たれた。ミノルカ雑種は4回の続坐が完了し、しかも故障が発見されなかったので5回目の続坐をさせた。5回目の雛がふ化した頃、少し視力に異常を来し身体の疲労が大いに加わったので、この時点で続坐を終了させた。以上、5羽の母鶏の各回にふ化した雛は全て名古屋コーチン種であったが、その成育の結果は回が進むにつれて逐次不良になった。しかし、季節の差異と管理が一定でないので、結果如何を断定するのは道理でないことは疑うことがない。

続坐に関して、私が知る養鶏家の意見は1つでは足りない。ある人が言うには、続坐は母鶏が抱卵に馴れているので種卵を破碎しない。また、ふ化に際しても雛を死なせることはない。ある人が言うには、続坐は抱卵中の経過は良好ではあるが、雛が衰弱して完全に成育することが少ない。甲是乙非入り乱れ止まる所がないが、私はこれを見て強く否定することはない。また、大いに賞賛するものでもない。これを非とする者の説は前述のように雛の成育が良くないと言うことであるが、○が甚だしいものである。雛のふ化に際して母鶏が足りないと訴える養鶏家は、躊躇なく続坐を断行することを私は切に願うところである。

## 1 1 母鶏育雛方法

雛が問題なくふ化し、体全部の羽毛が乾燥し、食欲を表し、わずかに歩行するに至ったら母鶏と共に巢外に出して、初めての飲食を与える。四季ともできれば日中に巢を離れさせること。雛の離巢に際しては、春冬と中秋後は必ず日光が直射する地面に藁藎を敷き、母鶏を伏籠に伏せ、その中へ雛をつけること。夏期と初秋は直射光線を避け、雛舎の軒頭に出すこと。布蓋いは四季とも1週間以上使用すること。

母鶏に付ける雛の羽数は母鶏の性質と体格の大きさを考慮する必要があるが、いずれに

せよ温順で体格の大きい母鶏でも30羽以上の雛を付けてはいけない。もしも、30羽以上の雛を付けたら、母鶏は往々雛を斃死させることになる。また踏殺することがある。もっとも25羽以上30羽の雛を1羽の母鶏に付ける場合は夜間に余裕ある広いふ卵籠または箱に収容する必要がある。但し、夏期は1羽の母鶏に15羽以上の雛を付けるべきでない。

雛が離巢後に腰部がしっかりして、ちらほらと運動ができるようになった時は、鶏籠の下部を3cmほど上げて水器でこれを支え、雛のみが出入りを自在にさせるようにすると、雛は大変飲んで運動をするので、発育が速やかになる。鶏籠を支える水器は当然水を入れておき、鶏籠の内外から飲水することができるようにすること。

四季における母鶏につける雛の日数は次の通りである。

春期 10日間 夏期 5日間 秋期 10日間 冬期 15日間  
 以上のように概定するが、風土の差異や気候の激変もしくは不順等に際しては良く考えて適宜に長短するのは養鶏家の裁量である。

四季における母鶏を取り去った後の夜間に1個のふ卵籠に収容する雛の羽数はおおよそ次の通りである。

期間 \ 羽数	春期	夏期	秋期	冬期
母鶏を取り除いた日から 10日間収容する雛羽数	16	12	15	18
母鶏を取り除いた日から 10日以上20日迄	15	10	13	17
母鶏を取り除いた日から 20日以上30日迄	14	8	12	15
母鶏を取り除いた日から 30日以上45日迄	12	6	10	13
母鶏を取り除いた日から 45日以上60日迄	9	5	8	10
母鶏を取り除いた日から 60日以上80日迄	7	4	6	8
母鶏を取り除いた日から 80日以上100日迄	6	4	5	6

夜間雛を収容するふ卵籠は春秋冬には外面に紙を張り、中に切藁を敷いて雛を収容する。その上部は寒冷の季節には藁をかける。夏期は藁○を蓋いとすると便利である。

母鶏を取り除いた雛は50羽内外を1群として1雛舎に飼育すること。特に数百千羽の多数の雛を飼育する場合は、大変発育がよい雛が多数いる中にも発育の悪いものがあり、雛の体格が一様でないことが生じることを避けることができない。この場合には最

大の体格のものから順次選抜して50羽内外の1群とすると、成育上大変良いことになることを信じている。

## 1.2 育雛函育雛方法

近年私達の同業者の多くが最も簡便な育雛函を使用して良好な結果を得ている。その様式に2つあり、一つは石炭油○を収容していた空函を代用したもの。もう一つは90cm四方の函を製作し、寒冷の季節には火力を利用するものとする。私は次に上述2つの育雛函の構造を詳しく述べ、さらに使用方法を説明しようと思う。

(1) 第1図に示すように石炭油○の空函を代用するものである。元の函を横に伏せ、上部を開ける。元の口孔は閉鎖する。このようにして簡易な育雛函ができる。この育雛函では2つの育雛法がある。一つはふ化当日の雛を収容して飼育するものである。もう一つは母鶏を付けて飼育するものである。私たちが考えるところによると、前者は大いに熟練を必要とする。後者は初心者であっても容易に成功するものである。但し、第1図の育雛函は炎暑の季節には多用すべきでない。

### ①育雛函を用い、母鶏を付けずに育雛する方法

1個の育雛函にふ化当日の雛約20羽を収容し、10日毎に2羽ずつ減らし、50日間函内で飼養する。始めに雛を収容する時は上部は、函にあった障子を作成し、これを函にはめる。適当に空気が流通するように気孔をあける必要がある。晴天の日は軒頭に出してその半分を日光に当てて温熱を取り、雨天の日は舎内深くに納めて冷気に触れさせないようにすること。さらに夜中はできる限り舎内を温暖にして安置すること。函底に敷く藎は毎晩交換すること。30～40日以後になれば1日に2回取り替えるのが良い。50日に至ったら雛舎に出して、50羽内外を1群として飼養すること。50日以後100日までは前章に記述した母鶏で飼育する育雛の取扱いと同じである。

### ②育雛函で母鶏につけての育雛方法

1個の育雛函に母鶏1羽を収容して、雛16羽を託すこと。前項の育雛方法と同じで、晴天の日は函の半分に直射の日光線受けさせる。雨天は舎内に置くこと。雛と母鶏を収容後2、3日間は母鶏を常に函の中に安坐させること。約4、5日後、雛に活発な動作が出てきたら母鶏は雛を広い所に誘い出し、自由に運動をさせたいために、函外に出ようとして絶叫することがある。これを防ぐために障子または竹製の格子蓋いを付けること。もしも障子を用いる場合は母鶏から発散する温度が高い為に母鶏をつけない飼育法に比べて空気孔を大きくすること。この飼育法において、母鶏を取り去る日の雛の飼育羽数は前章で記述したように各時季に従うこと。飼育及び夜中の取扱いは前項を参照すること。

(2) 第2図に示す育雛函

この育雛函は私が長年、育雛の困難に対応するのに苦心熟考して作成したものである。

その形状は大きく、一見無益の長物のように見えるが、実際に使用してみると育雛に効果がある。先ずその製作法と使用法を次に述べる。厚さ6歩の杉または縦の板（安値で反曲しない材であれば何でもよい）で底の無い縦横90cm方角の函を作り、上部から66cm下の2方面の内部に夫々水平に○を打ち、その○上に幅約9cm厚さ6cmの材木を9～12cm間隔で並列して置く。そこに莖若しくは○蓑を敷き、その上に雛を置くところとする。第2図（い）のように下部から高さ33cm、横24cmの窓を2方面に相對して開け、窓戸は冬春には板戸を用い、夏期は格子に○子を張る。また上部の蓋いも同じく寒暑で異なる。甲蓋いのように寒冷の春夏秋冬は90cm方角の障子の中央に30cm角の硝子をはめ込んだものを用いる。暑い季節は乙蓋いのように90cmの格子に○子を張ったものを用いる。前述したようにこの育雛函は寒冷の季節には底部の窓口から火気を入れて温度を昇騰させる仕掛けである。特に暑い季節には格子に○子を張ったものを用いるのは熱気を凌ぐのに便利であり、かつ夜間蚊害を予防するためである。

私は初めこの育雛函を用いてふ化直後の雛を直ちに函中に收容し、火力を頼って飼育することを考案し、数十回精密な試験を行った。初生雛に用いる温度は25.5～26℃以上とする。もしも間違つて34.4～35℃以上または15.5℃以下になると函中の空気が乾燥したり冷気に侵されるために忽ち斃死するか衰弱した。この試験中の失敗は幾度にも亘つたのでさらに一考し、ふ化後5日経過した雛を收容することにした。成績良好で他器の及ぶ所でない。今や私の指示に従い、この育雛函を用いて飼養する各地の同業者は大いにその実効あることを褒め称えるに至っている。

この育雛函にはふ化後5日を経過した雛50羽を收容し、これを60日間飼養する。春冬及び晩秋の寒冷の季節には折り莖を敷き、その上に雛を放つこと。第3図に示す障子を蓋いとする。莖は毎日取替えること。外気温が8.8℃以下になる時は底部の窓から火気を入れ温度を昇騰させること。最高温度は16.6～17.2℃とする。火気を用いる場合は必ず飲水を欠乏させないこと。また一○夜食餌を与える時には16、17回空気を変更すること。暑気には右の莖に替えて○蓑を用いて熱気が鬱積しないように注意すること。また、雛を飼育中の育雛函はたとえ春ののどかな日であっても、西風が冷たい秋日であっても必ず軒下または舎内に静置して、日光が直射するところに出してはいけない。特に注意することは收容した50羽の雛は收容後30日迄夜間に2～3個のふ卵籠を函中に挿入して雛の数を2～3分して寝臥させれば決して死ぬことはない。函中で60日間の飼養が終われば直ちに雛を雛舎に移すこと。

雛舎に移す時は舎内の窓に隙間があれば必ず紙を張つて夜陰の冷気の侵入を防ぐこと。また、日中太陽の光線を取るために雛舎の戸を障子とする。舎内に約20日間飼養する際1日に2～3回、30～40分間ずつ運動場に出し、日光の直射に慣れさせること。50日後には雛たちの自由に任せ、日中は障子を開放して舎内または運動場を闊歩させることを良しとする。雛舎に移した後50日間の夜間の雛の取扱いは、母鶏育雛法

に記述した夜間1個のふ卵籠に収容する雛の羽数を参考にすること。

そもそも養鶏家が競って育雛函を使用するのは害虫の蔓延を予防し、管理の手数を省略し、雛の発育が迅速なるからである。第2図の育雛函で飼養する雛は他の育雛器の方法で飼養するものに比べて大きな差異がある。体重においては2割強肥大することは私たちが証明するところである。

第13図に示す飲水器は各種育雛函に用いるものである。その製作は大変簡易で効用は著しく大きい。育雛函内で不完全な飲水器を使用すると雛の羽毛が湿って成長を害することがあるが、本器はそのような心配が無いように自分の手で製作できるので大変重宝である。製作方法は15～18cmの竹を両端の節を残して切断し、底部を平らに削り、上部に図のような2個の穴を開け清水を入れること。竹の節間が長い時は3～4個の穴を開けても支障がでることはない。

### 1.3 雛の食餌と給与順序

本章は最も重大なことに属し、しかも本書の骨子とも言うべきものである。本章で述べるところは雛のふ化離巢後初めての飲食を給与する日即ち餌付け以後50日間の食餌の品名と回数である。ここで読者に最も留意してほしいことが2つある。1つは、母鶏育雛法と各種育雛函育雛法では食餌内容や給与回数が異なるものでないこと。2つ目は雛の食餌の分量を一定にしないことである。なぜなら、甲乙2群の雛のふ化日が同じであってもその種類の大小や体質の強弱によってそれぞれの飲食の量に差異があり一定でないことは論を待たない。もしも、この分量を一定にして与えたら、小型の種類と微弱な雛は適当な量を飲食するが、大型の種類と健康な雛は必ずその不足を訴えるようになる。このような事実から雛の食餌量を一定にすることは大変困難なことに属する。家禽学者が論じるところでは、雛は必ず飽食させずに平常の分量を一定にして給餌すること、という意見であるが、これは一つの学説として聞くべきである。実際においては決してこのようにはいかない。ある場合を除いて、私は寧ろ常にある程度までは飽食させるべきだと断言する。なぜならば雛が飽食して運動が緩慢になることは、空腹のために〇〇して〇動する害に及ばないからである。私は約50日以内の雛に給与する食餌は1回に給与した後30分以内に食べ終わる量が最良の量であることを固く信じている。ある場合とは幼雛を遠路に輸送する時など、途中で食餌を欠くことで1日～半日絶食状態になる場合を指す。このような飢渴を訴えるときはその食欲に任せて飽食させることは大変な害をもたらす。従ってなるべく、急激な給与は行わずに、数回に分けて給餌すべきである。

前段で述べたように幼雛に給餌する食餌の量を一定にすることはできないが、とりわけ焼鱈だけは、各日齢の雛に次のような分量を与えること。これは初心者が多くが参考にすべき標準である。しかし土地の状況に応じて生鱈を得ることに難易があるのでこの量を増減するのは当然のことである。ふ化後50日以内の雛に対して経過日数に応じた

食餌と給与回数を次に示す。

(1) ふ化後 10 日以内の雛に与える食餌と給与回数

- ・ 白小米
- ・ 細切した青菜類
- ・ 焼鱈

焼鱈の分量は離巢後 2 日目の雛 100 羽につき生鱈 150 g とする。以後毎日逐次 4 割増とする。即ち 9 日目には 2055g 強を与えることになる。30 日目までこの割合で給与し、30 日目以後 40 日目まで毎日 4 割減、すなわち反対の割合で逐次減量して給与する。なお 40 日以後、鱈を給与することは他の動物質より優れ、成育が良くなるが、餌代が増加するので鱈の捕獲に便利な土地でなければ可能でない。

(備考) 鱈を得ることが難しい時は焼鱈の代用品として次に掲げる魚類等を給与すべきである。分量は鱈と大差ない。但し、魚類と肉類は蒸し煮するか焼くかして細切する。牛乳は白小米に攪拌して給与する。

(鱈代用品) ○、ハエ、○の類、海魚であれば○、○、○虎魚、○子、鰻仔 (ボラコ)、○魚 (キス)、その他雑魚及び鰻屑、牛、豚肉、他の獣肉、牛乳

- ・ 飲水

給与回数 1 日約 16 回。

(備考) 約 16 回とあるのは各食餌と給水を 1 回毎に全てを給与するのではなく、2 品～3 品以下を 1 回に給与する意味である。以下これに準じる。

(2) ふ化後 10 日以上 20 日以内の雛に与える食餌と給与回数

- ・ 白小米
- ・ 碎米
- ・ 粟
- ・ 細切した青菜類
- ・ 焼鱈 ((1) 参照)
- ・ 飲水

以上の給餌と飲水給与回数は 1 日約 14 回。

(3) ふ化後 20 日以上 30 日以内の雛に与える食餌と給与回数

- ・ 碎米
- ・ 粟
- ・ 粳 (少量)
- ・ 細切した青菜類
- ・ 焼鱈 ((1) 参照)
- ・ 飲水

以上の給餌と飲水給与回数は 1 日約 12 回。

(4) ふ化後 30 日以上 40 日以内の雛に与える食餌と給与回数

- ・ 碎米
- ・ 粟
- ・ 粃
- ・ 細切した青菜類
- ・ 飲水

以上の給餌と飲水給与回数は1日約10回。

(5) ふ化後40日以上50日以内の雛に与える食餌と給与回数

- ・ 碎米
- ・ 粃
- ・ 粟
- ・ 小麦(少量)
- ・ 練餌

(備考) 練餌は35日若しくは40日以上の子にのみ給与すること。35日以内の子に練餌を与えると、顔面と羽毛を汚すので害を招くことがある。この期間から練餌を与えるのは(1)で焼鱈の欄で記述したように徐々に鱈の分量を減少させることによりこれに替えて他の動物質即ち河海の魚類と魚屑等を練餌の中に混ぜることがもっとも便利であることに基づく。

練餌調整法 碎米、粃、挽粟、挽小麦の中へ獣肉を細末したものあるいは河海の魚類又は魚の頭骨腸を加えて水を混ぜて煮沸し、熱気が去ったときに米糠、小麦糠、麦粉、青菜を混合してこれを練り合わせたものである。若しも煮沸するとき硬堅であれば水を加えること。

- ・ 飲水

以上の給餌と飲水給与回数は1日約9回。

更に付記しようと思うことがある。30日以内の子を育雛函で飼育するときには飲水器が不完全であると羽毛が濡潤することがある。これを避けるには主食である白小米または碎米を2時間清水に浸して与えること。また焼鱈を作る方法は石炭油缶を横断し、1方向を開き上部とする。これを窯に懸け、よく熱がかかったところに生鱈を入れて半分以上が焼けた頃合い合を見計らって火箸のようなものでかき回すこと。

14 雛50日経過後の食餌と給与法並びに100日経過後の子の注意

50日経過後の子に与える給餌は練餌を主とし1日5回給すること。その間副食として〇〇米、粃、糝、小麦、粟、挽割〇〇、このような粒餌を3~4回散布して与えること。また、細切した青菜類は決して欠かしてはならない。練餌の調製は前章で細述したが、50日以後の子に与えるものは前掲のものに比べて日齢が進むにつれ米糠、麦粉、小麦麩を多量に混ぜて〇〇になるようにすること。約100日経過すれば親鶏と同じ練餌

にすべきである。しかし、副食として親鶏には1日1回粒餌を与えるが、この100日経過の雛には2~3回与えること。常に細心の注意を払って愛情深く飼育すれば十分に体格が発育し、産卵することもまた速くなる。

私が数百回実験したところ、雛の飼育に際しては常に滋養分に富む食餌を与えること。急に疎品と交替することは非常に恐ろしい失策で、疾病や衰弱を招く原因となるのは言うまでもない。雛が良好な成長の結果を示すのは気候が好順で、食餌が善良で、管理が完全であることに依るのである。しかし、食餌の善悪は深大な関係を有しているので、飼育者はよく心得ること。私の飼育法は雛がふ化後100日までは夜間それぞれをふ卵籠に収容する。100日後は棲架で寝させることになるが、雛を直接棲架で寝させると○ち胸骨凸部起を歪害し、終には不具となるので、これを予防するために下図のような薄い竹○で編んだ竹さなを棲架に載せその上に雛を並列させること。もしこの竹さなを整えることができなければ藁で代用すること。竹さなは雛の胸骨に害を与えないだけでなく糞が棲架の下に落ちるので取扱いが大変容易になる。

注意することは長い期間、孵卵籠で夜間を過ごした雛を初めて広い棲架の上に出す時は当分の間恐怖心が強く生じ、一群にした鶏は必ず一方の片隅に群れ集まり大混雑となる。そのため、これを管理する者は夜中に1回以上この混雑を解消する労を惜しむべきでない。そうでなければ斃死する鶏が多く発生する。仮に斃死しなくてもこのような混雑が生じることは極めて有害なことが多く、○○の発病原因となる。

## 15 雛の雌雄判別

雛の雌雄を出来るだけ初期に判別して、雄雛を市場に出し、雌雛を飼育するのは固定の利益があるので、特に多群の鶏を飼養する專業家は必ずこれを実行すること。なぜならばここに雛百羽をふ化させてこれを成鶏に飼育するには、雌雄が半分ずつと仮定し、時価に換算してみる。雌50羽で仮に80円を得たとしても雄50羽では僅かに40円を得るに過ぎない。雄は雌に比べて市場では常に安い、飼育費はこれに反して雌よりも約5割内外多くなる。このため私の地方の過去10数年の実情では、雄を成鶏にして販売してもそれで得る代金は飼育費を償うことをできないのが常である。このような実情から我が国のその業者は初期において雛の雌雄を鑑別し、雄雛を市場に○ぐを例とする。市場に出された雄雛は如何になるかを記述する。雄雛は二様に分けられる。およそ百日以上三百日内外のものは「大抜」と称して多くは横浜、神戸など外国人が住む地域に輸出し、肉用とする。また百日以下のものは単に「ヌキ」と称して市場で行商人の手に渡り、行商人はこれを○務して雛をふ化させることがない農家に10羽~20羽を売りつける。農家はこれが成鶏になると食用にする。または雌鶏と交換する習慣ある。しかし、時には市場で雄雛の出荷が多くて到底国内で買い手がつかない時は、これを近隣国に輸出することがある。この場合において、荷主の商人は決して雄雛であることを口外しないで雌雄混合であるとして顧客を欺き販売する。顧客は彼らの甘言に惑わされず

深く警戒すべきである。

上述の事情は二十年を経て、養鶏業がようやく盛大になった我が尾張の実況である。○○○○養鶏が盛んになる地方では必ず上述の事情が生じることは火をみるが如く明らかである。

さて、初期の雛における雌雄判別の方法は一定の標準があるが、決して共通の標準があるわけではない。その方法を完全に文章で記述し言葉で表すことはかなり不可能なことに属する。なぜなら種類と羽毛の差異、成育の良否、ふ化後日数の異同、○形○状など、大変錯綜し、その認定点が一様でないからである。読者がこの奥義に熟達しようと欲するならば、その道に堪能な先輩に就いて実物をもって教えを乞うことに勝るものはない。

しかし、このような問題が存在する限り、私たちはその業者として可能な限り説明を行うことは立場上の大きな義務であるので、下記に雌雄判別に関する方法の概要を述べる。

#### 雛雌雄判別法の概要

交趾種 雄雛は頭部と体格が雌雛に比べて遅しく、羽毛と冠に光沢がある。殊に冠の鋸歯状が深く○く其の幅が厚い。また、羽毛が薄くその先が尖がる。頸羽、肩羽に薄めの斑がある。雌雛は頭部が小さく、鋸歯状の冠は軟らかくて薄い。しかし羽毛は光沢がないが厚く羽端が円状である。また、雄雛に比べて羽毛の発生が早い。

ブラマ種 雄雛は身体が長く、脚が長い。雌雛は円形で脚が短い。また雄雛は頭が大きく、胡桃冠は高く盛り上がり全体的に紅色を呈する。雌雛は頭が小さく、ほとんど鶉の頭のようなものである。かつ雄雛に比べて羽毛の発生が著しく早い。

レグホン種、ミノルカ種、アンタルシャン種 これらの鶏種の雄雛は雌雛に比べて概して冠が厚大であること。雄雛の羽毛は薄く、その先端は尖り光沢がある。雌雛はこれの反対である。

ウーダン種、ボウラント種、ラフレシ種 これらの鶏種の雛は初期においては雌雄の判別が最も困難である。それぞれについてその特徴を発見するのに苦しい。まず同時にふ化したものであれば体格が大きいものは十中八九、雄雛である。

ハンボルク種、ワイアントツト種 これら薔薇冠種の雌雄を分けるのは早期に冠に光沢があり、冠が広いものは必ず雄である。冠が狭小で軟らかいものは雌である。これが雌雄を判別する唯一の徴候である。

#### 16 鶏種による産卵の遅速

雛が成長して初めて産卵に至る時期は最も早いものでおよそ120日以上の日月を要するものである。しかし、鶏の種類、体の大小、飼育の良し悪しによって甚だしい差異を生じるものである。普通、肉用種は産卵種に比べておよそ65日以上初産の日が遅くなる。肉用種の初産はおよそ7か月～11か月、卵用種は4か月以上8か月である。

私は初産の遅速について経験上一つの新事実を発見した。世間では肉用種は産用種よりもその初産は必ず遅延すると認識しているが、ある場合にはその常識に従わずに、肉用種の方が卵用種よりも産卵が早いことがある。それは季節の異同等によるもので、少なからずある事実である。更に私たちがいろいろ喋るべきところではないが、下記の事実は大いにその業者の一考に値すべきことであると信じる。私が発見した事実はこれである。

肉用種、卵用種、または卵肉兼用種のいずれを問わず、その種類の祖先10数代または4、5代にわたり、その土地に馴れ、繁殖が良好なものは産卵を開始するのは極めて早い。これに反して新たに移植した鶏種は、その成育が良好であっても、原産地では4、5か月で産卵を開始するものでも転地先ではふ化後10か月ないしは1年以上経過しても初産を為さないものがある。これはたいへん不思議なことであるが、私はこのようなことがおきることを断言できる。しかし、その理由は研究中である。その種類がその土地に馴れているか否かによって成育上に影響を及ぼすために産卵の遅速が生じるのか否か大いに研究すべきことである。

#### 17 練餌調製と給餌回数

鶏肉または採卵の目的で成鶏に与える練餌はその地方の状況により物品の価格に高低の差があり、餌の材料を一様にするには難しいことである。しかし、この練餌の調製具合は本業経済の最も重要なものであるので、当業者は深く考慮すべき所である。

我が地方の飼養家が調製する練餌は、米糠を基礎としてこれに麦糠、小麦糠、糶、麦糶、豆腐殻、飴粕、麦粉、煮沸した馬鈴薯と甘薯などの内の1種または2、3種に、煮沸した生魚又は乾魚（生魚が良い）の頭骨、腸、もしくは獣骨血肉、羽〇、鯨粕、河海の細魚介類の1種または2、3種を細片とし、これに清水をかき混ぜて作製する。その硬軟は杓子で取り扱うのに便利な程度とする。以上の各物品の割合は下記のとおり。

- ・米糠 六分六厘
- ・麦糠その他 一分弱
- ・青菜類 一分弱
- ・魚屑その他 二分二厘
- ・清水

備考 麦糶及び糶は煮沸したものを練餌に混ぜるのが最も良い。また牡蠣殻を破碎する際の粉末を少量練餌に混入すること。

次の表は私が明治34年4月発行東京家禽雑誌上で某氏の質問に対して答えたものである。その質問は、柵飼名古屋コーチンの給与飼料名と1日の分量、並びにその費用は如何ほどかというものである。それに対する私の答えは、鶏は四季によって採食量の増減があり、かつ体の大小にも大いに関係があるので、分量を一定にし難い。ここに体量2,625g(3.75g×700)の名古屋コーチンと仮定した場合の概略の表を作成し、その

質問に答えたので参考としてここに抜粋する。

「名古屋コーチン種は作出後、日が浅いので体量等について未だ公定の標準がない。三河の小柳津氏が飼養する同種雌は体量平均 1,875g (3.75g×500) 内外である。また、名古屋の海部氏及び林氏、私が飼養する雌鶏は平均 3,000g (3.75g×800) 内外である。産地飼養家の同種においても上記のように差異があるので、各地に輸出した同種鶏の体量が一定でないことは疑う余地が無い。そのため同種 1羽の 1日の食餌分量を確定することはできないのは当然である。故に私は同種雌鶏体量を凡そ 2,625g (3.75g×700) と仮定してこの質問に答える。

但し、餌料価格が地方によって異なるので、便宜上尾張地方の現在の物価に基づき算出した。

名古屋コーチン 1羽 1日の給餌量及び価格

練餌の部

・米糠	1 2 3 . 7 5 g (3.75g×3 3 匁)	2 厘 2 毛
・魚屑	3 7 . 5 g (3.75g×1 0 匁)	1 厘
・麦糠	1 8 . 7 5 g (3.75g×5 匁)	2 毛
・青菜	1 8 . 7 5 g (3.75g×5 匁)	3 毛
計	1 9 8 . 7 5 g (3.75g×5 3 匁)	3 厘 7 毛

(備考) 魚屑の代用として獣骨肉血と鯨粕、その他河海の魚類を「魚屑」と殆ど同じ量で用いることができる。しかし、支出額が増加するため不経済であるので養鶏業を維持することができなくなる。麦糠の代用として飴粕、小麦皮、下糝、豆腐殻、麦粉及び馬鈴薯を沸騰させたもののうち 1種類または 2種類を用いるのは殊によい。練餌は 1日、朝昼夕の 3回与える。

粒餌の部

・小麦	5 4 ml (18ml×3 勺)	2 厘 2 毛
・大麦	5 4 ml (18ml×3 勺)	1 厘 5 毛
・粳	5 4 ml (18ml×3 勺)	2 厘 2 毛
・上糝	7 2 ml (18ml×4 勺)	1 厘 5 毛
・粉米	5 4 ml (18ml×3 勺)	2 厘
平均	5 4 ml (18ml×3 勺) 強	1 厘 8 毛強
外に牡蠣殻		2 毛

(備考) 粒餌は右記した各種を全て与えるわけではない。これ等の内の 1種類を鶏群が埒に入る前に 1回だけ与えることを知るべきである。従って給餌量と平均価格は前の表と合算すると下記のようなになる。

1日 1羽の食餌料 5 厘 7 毛強

内訳

練餌総量	1 9 8 . 7 5 g	3 厘 7 毛
------	---------------	---------

粒餌総量	5 4ml 強	1 厘 8 毛強
外に牡蠣殻		2 毛

## 1 8 粒餌給与の必要

練餌を常食とする柵飼の鶏に粒餌を副食として与える時は、如何にして肥えさせるか、産卵を助長させるかは私が言うべき所ではないが、その給与の時に誤ると練餌のみを食べるのと同じとなり効能がないばかりか反って害を生じることがある。また、粒餌を充分に採食させることは良法ではない。なぜならば、小麦や大麦は食後甚だしく膨脹し、時には消化器機能を損なうことがあるので、注意しなければならない。

私は粒餌を与えるのに最も適当な時間帯と考えるのは鶏がまさに埒に入ろうとする前約30分である。ある人が言うには、埒に入れば運動をしなくなるので不消化で胃腸を害するのではないかと一応最もな意見であるが、家きん類は必ずしも人と比較してこのことを論じるべきでない。私たちが実験したところでは、晩〇に粒餌を与えても決して胃を害することはない。鶏はほぼ満腹で埒に入り、夏期の短い夜でも翌朝になれば非常に空腹を訴え、食欲のために〇々するものである。晩〇に粒餌を与えるときは消化機能の調和をよく整え、翌朝になっても甚だしい飢えを感じないようにする。さらに、朝または日中に粒餌を与えるかどうかについて述べる。粒餌は美味しい餌であるので練餌を嫌うようになる。これは大いに不経済となる。そのため私たちの地方の養鶏業者は一律に晩〇に粒餌を投げ与えることにしている。これを名付けて〇り餌という。

粒餌として供する種類は前章にその大半を掲載したが、更に次に掲示する。

- ・小麦
- ・大麦

(備考) 小麦、大麦を食べることを嫌う傾向があるときは、これを1日水に浸して与えれば進んで採食する。

- ・糝
- ・麦糝
- ・疎〇米
- ・粉米
- ・碎米
- ・〇
- ・粟
- ・黍(きび)
- ・燕麦
- ・玉蜀(トウモロコシ?)

柵飼の鶏は毎回粒餌のみで飼養しても決してその目的である肥育・採卵に効果を示すものではない。必ず常食は動物食を混合した練餌とすること。これに粒餌を少量副食と

して与えるのが最上の飼養法であると断言する。私はかつて、粒餌のみで飼養した鶏の肥育と産卵の多寡について調査したことがある。次にその際得たところを補記する。

私の知り合いの穀物商4戸で調査した。それぞれ市街に住所があるので皆、数羽から10数羽の鶏を柵飼または半柵飼で飼養していた。彼らは穀物商であるので毎回給与する餌は残遺の米または小麦である。他のものも給与するが、青菜以外は一切食べない。産卵数は種類によって異同があるが、各品種とも私が練餌で飼養した鶏に比べて大いに劣る。しかし、その鶏を捕まえ、具（つぶさ）に肉の多寡を調べてみると、肉色は少々光沢があり肥充していた。よって私は、粒餌のみで飼養すると肥育の点では少し効果があるが産卵は練餌飼養の鶏に比べて劣ると断言する。

### 19 着巢の念を断たせること

鶏が着巢の念を永く継続すると益々疲労し、大い体重を減らし、容貌は枯○で大いに元気な外観を失うものである。そして、その体重を回復させて産卵を促すには、着巢の念の継続日数が長ければ長いほど、回復の日数も長くなる。そのため収益の点からみると、無用の着巢鶏は寸時でも早く着巢の念を断たせることが必要である。しかし、着巢鶏はその身体作用において変化があるものであり、普通の鶏に比べて体温が高いことを示し、かつ食欲が十分に進まないのと言うまでもなく健康体でない。そのため、着巢の念が強い鶏に対して残忍過酷な虐待をすればすぐに落命して悔いを遺すことは私が往々目撃するところである。初心者は上述のような事情があることを理解せずに直ちに着巢の念を断とうとして非情の挙動に出て、一粒の食餌も与えない。湿気の有無、または炎熱厳凍にも拘らず鶏を拘束して一滴の水も与えない。暗黒な桶函などに入れるような残忍で危険な処置は大いに排斥しなければならない。

既に述べたように着巢の雌鶏は身体作用に変化を呈するものであるので決して健康体でない。一種の患鶏であるので健康鶏に比べて一層慎重に養護し、徐々に回復させるべきである。私たちは着巢の念を断たせて予後を微少な障害もないようにするには、着巢の鶏2、3羽の少数の時は普通の鶏籠に収めて明るい所に置いて、美味しい餌を与える。20、30羽以上の多数の時は1鶏舎若しくは2、3鶏舎を着巢の鶏のみを収容するところに充てる。精力が盛んな雄を配して、日中は敢て鶏舎内に入ることを禁止する。夜間は産卵函を除去すると共に餌は精良なものを与える。このようにすれば早いものは2、3日、遅いものは10日以内でその念を断つ。この方法に従えば少しも危険なことはないし、労力も要しないものである。

### 20 成鶏替羽の注意

雛が成育中に疾病に罹りやすく、若しくは虚弱に陥りやすいのは多くは換羽期である。成鶏も等しく然るところである。特に平常期に健康でない鶏と老齢の鶏は大いに警戒すべきである。その注意が至らない時は不慮の疾病を醸すものがあるので、飼養者の利益

を減殺することになる。雛の替羽はふ化の時期と種類に依り、1年に2回から4回である。成鶏は1年に必ず春秋の2回である。春期の替羽は大変軽少であるので、疾病に罹ったり虚弱に陥るようなことはない。また、雌鶏は産卵を休止することはないが、秋期はこれに反して重〇で全身の羽毛〇〇新陳代謝する。平素から余り健康でない鶏と老鶏は強く衰耗苦〇の様相を呈する。秋期の替羽は9月中旬から11月下旬に終わるものであるが、上述のような衰耗苦〇の鶏は替羽期間が遅延し、往々厳冬に渡るものがある。秋期の替羽は出来る限り短日数の期間で、しかも輕易に終了させるのは養鶏家の務めであり必ずこれを怠ってはいけない。私はその期間に次の飼養法を履行することを望む。

- (1) 秋期の替羽時の餌は通常よりも動物質を多量に混ぜ、〇で滋味を与えること。
- (2) 替羽期に先立って、夜間に寒気の来襲を防ぐために、早く窓と戸〇を密閉すること。
- (3) 替羽毛が脱落し、新羽毛が発生する際に、羽虫はこの時に乗じて軟らかい羽根に蚤蝕する。このために鶏はその痛苦に耐えられず砂浴を浴するので、砂浴場を必ず設置し、少量の除虫剤を投入すること。

秋期の替羽に入ると完全に産卵を休止するので、無慈悲で飼養法を顧慮しない養鶏家は、給餌する餌を通常より粗悪なものに変更したり、管理を放棄するものが往々にしてある。これは〇〇ふの甚だしいものである。

## 2 1 少産の雌鶏選抜

私が本章で言う少産鶏とは各種の雌鶏で、種々の故障などによって、産卵が少ないものを意味する。この少産鶏の選抜を正確に行うことは容易ではない。多年の練達した経験と緻密な考察で判定することが必要である。そうでなければ、過誤に陥ることが少なくない。

私は多年の荒涼とした自家の鶏飼い生活の賜物から、少産鶏は下記の故障及び事実があることを確かめた。読者がこれを後日検証してくれれば幸いである。

- (1) 雛の時、非常に発育が悪い鶏及び成育中大きな病気に罹った鶏。
- (2) 成育が遅鈍な鶏及び成育に日数が比較的多くかかったにも関わらず成育が完全でない鶏。
- (3) 発育は完了するが、成鶏に至って容貌が憔悴し、外観乏しくかつ豊肉でない鶏。
- (4) 各部は完全に発育するが、臀部が特に緊縮する鶏。
- (5) 肉用種特にコーチン及び兼用種プリマスロック等、全身の脂肪系が良く充満し、ためしに臀部を掴むと殆ど球のようで、中に少しの軟弱さもない鶏。

## 2 2 群鶏管理一般

既に鶏舎の建築方向と構造は詳述したが、飼養しようとする鶏に適する鶏舎を築造し、運動場に柵を〇〇し、必要な水器、餌槽、産卵函、砂浴場を設備してから鶏を收容する

こと。

春冬の季節は鶏舎及び運動場を吹き荒れる寒風から防ぐために、鶏舎側に風除けを設け、舎内の窓を密閉すること。また、朝夕は鶏舎と運動場に日光が入り温暖を取ることが出来ること。朝霜が降りた日、降雨○凍のときは鶏群を舎内に収容し、天候が快晴になり運動場が乾燥するのを待つこと。もしもこのようにしなければ、鶏群は凍傷に罹ったり、水蒸気に打たれることになる。さらに運動場の糞を遺棄できない憂いがある。特に私の地方の雪国においては、冬期と早春は鶏群を鶏舎の後部に入れ、鶏舎の戸を障子にして油紙を張って飼養し、ひたすら寒風を避ける。こうすることにより、冬期に休産したり凍傷に罹ることはない。

寒冷の季節は収容羽数が決まっている鶏舎でも1割ないし1割5分ほど羽数を増加し収容してもかまわない。ただし、既定の羽数を超過して収容するとき、特に春は産卵が盛んになるので、速やかに産卵函を増加させること。盛夏と秋冬、採卵は毎日午前・午後の2回で足りるが、春と初夏は毎日4回以上採集すべきである。採卵に行く際、1個の産卵函に多数の雌鶏が乱入しているときはすぐにこれらを函外に出して腰倒の被害を避けること。

鶏は寒気を凌ぐが夏期の炎熱の被害を蒙ることが多いので、夏期には運動場と鶏舎に十分な日陰を準備すること。この日陰を作るには桐、梧桐（あおぎり）、桑、柿のような夏期に最も葉芽が繁茂し、秋期に落葉する樹木を植えること。特に桐は成長が早くかつこれを販売すればその価値が高いため植後約4、5年を経過すれば伐採して大きな利益を得るに至る。桐を運動場に植えれば鶏糞の残遺によって繁茂するので、施肥の労がなく利益を得ることができるので、あの「遺利を拾う」の金言に適するものである。また、ひとたび植えればその伐採後に更に苗木を挿植する必要がない。古株から発芽して、その成長は苗木よりも迅速である。秋期に伐採すれば新芽は翌年の夏期に十分な日陰を作る。炎暑の時は鶏舎に収容する羽数は必ず定数より少ない羽数とする。夜中の温度が26.7℃以上になれば鶏舎の戸を開放し、かつ、各鶏が接近しすぎないように注意すること。夏期は害虫を駆逐するために鶏が埒に入る前に棲架の辺りに溶解した石灰酸または少量の石油を散布しておくこと蚊、羽虫、ブイの類を大いに避けやすくなる。また伝染病の来襲を防ぐために生石灰を1日置きに散布すべきである。

鶏舎の窓は中秋に密閉し、晩春に開放する必要がある。異なる品種の鶏を同居させることは雑種作出になるので極力避けるべきである。強いてこれを同居させると体重の軽いハンブルグ種とレグホン種は体重の重いブラマ種とコーチン種に○倒させられる。元来貧弱なプウラント種は強健な名古屋コーチンのために凌駕されて成育不良となる。

毎夜鶏舎を巡回して、着巣している鶏を産卵函から出して、これを着巣鶏だけを収容する舎内に移す。また、着巣を止めた鶏はもとの鶏舎に帰還させること。着巣を止めた鶏は多量の餌を採食し、翼羽を緊縮して伏坐しない。

病鶏を発見した時は直ちに隔離し、特別の養護をすること。伝染病の徴候があると認

める時は、発症鶏の鶏舎付近を消毒すること。隔離舎の病鶏には軟らかい餌とあぶり鱈を少量与え、体の衰弱を防ぐこと。寒暑に注意して静かに看病すること。(伝染病の消毒、その他については家鶏3大伝染病の章を参照すること。)

鶏が重病に罹った時は発熱が高ぶるため、殆ど消化機能の作用を停止する。そのため、そ嚢に溜まった物質は嚥下されず、薬餌を与えても効果がない。その回復は極めて稀である。時々稀に回復するものがあるが、多くの日数と労力を要するものである。此の為に失う費用を考えると、健康鶏を補充することがはるかによい。そのため、重病に罹ったものが貴重な鶏でない限りは直ぐに処分するのがよい。鶏の疾病も我々人間と同じでその種類は極めて多いが、ひとつひとつの疾病に対する完全な治療法が確立されていないのと同じである。既刊の家禽書には長々とその病因を説明し、療法を詳述する。しかし、それに基づいて具(つぶさ)に実験をするものの、多くは徒労に終わり、奏効するものは極めて少ない。これは私一人の私見ではなく深慮ある養鶏家が常に嘆惜するものである。私も10数年来、この仕事に携わる者として、病鶏を治療し、千辛万苦を味わった。また、内外の養鶏家が示す所に従い、あるいは自分の考察を練り、百数十回の試験を行ったがその多くは失敗に終わった。しかし中には幾分好成績を表したものがなかったわけではないが、ここに完璧でない療法を記述して、世間の耳目を欺くことは不徳に忍びない。更に大いに研鑽して大成の後に日を改めて世間に公表することとする。

鶏舎と運動場の清掃、すなわち鶏糞の採取は毎日1回これを行って、乾燥場に運んで乾燥させること。鶏糞を乾燥させる時には労働をおしまずに可能な限り早く乾燥させれば体積を減らせる。かつ、外観が疎でないで顧客を引くことができる。乾燥した鶏糞は俵詰にして湯気が含まれないように貯蔵すること。

飼鶏を管理する人夫は成鶏約300羽に対して1人の割合で足りる。この人夫の義務は鶏舎の開閉、飲食の給与、卵の採集、鶏糞の清掃と乾燥・俵詰、これらの作業の合間に牡蠣殻の粉碎、青菜の農園での収穫とその販売の業務にも従事する。

飼鶏管理上、番犬を飼養して人畜の被害に備えることは大いに必要である。しかしこの目的のために成犬を他から導入すると概して○○で不忠で、往々用をなさないことがある。そのため多少の困難は免れないが、幼少な子犬を放し飼いにし、その任務に従わせること。子犬は成育する時に戯れて平飼の雛を追い、又は鶏舎に入って餌槽を伺ったり、鶏卵を窃取することがある。このようなことがあれば直ちに殴打して深く懲罰を加えて決して再犯しないようにすること。犬は性格が素朴であるため、懲罰の効果がある。これに反して猫、鼬、狐、鼠、蛇の顔を見ると○○して直ちに咬殺し、または窮迫する。

### 23 鶏の害虫とその予防及び駆除方法一般

鶏の害虫は気候と風土が異なることにより、その飼養方法に種々のものがあるが、我が国における鶏の害虫は下記の種類である。

虱(しらみ)、糞虫、羽虫、蚤(のみ)、銚虱(はさみしらみ)

その他、蚊、ブイのようなものがあるが、これらは単に家禽ことに鶏に限らず人類と畜類にも関係するので、単に鶏の害虫として限定することはできない。しかし鶏の被害が少ないので、これらも本章中に加えて、その予防と駆除方法を説明する。

虱 10数日経過した雛に多く発生する。その原因は元々母鶏の羽毛中に生存していたものが雛に移ったものである。従って、雛に付着する虱はふ化後数日間に母鶏から伝染したものである。特に雛は軟弱な皮膚であるために蔓延することが速い。雛がふ化後10日内外経過すれば、頸や頭部に産卵し繁殖する。虱の多くは晩春と秋期の雛に大変多く発生する。虱が発生した雛は食欲不振、成育不良、憂鬱の状態を呈する。この雛を捕まえて、頭と頸部を検査すると一か所若しくは二か所に数十群の個体が集まっているのが見える。虱が害をなすのは、多くは夜間で、日中は鶏の嘴や趾が届かない頭や頸に隠れている。夜になると鶏の全身に蔓延する。虱害によって親鶏が生命を失うことは稀であるが、雛特に幼雛は虱害で死亡するものが少なくはない。

虱を予防するためには抱卵中の母鶏の羽毛に2, 3回25倍の石炭酸を塗布すれば大変効果があるが、ともすれば母鶏に害を及ぼし、かつ種卵を冷却させる恐れがある。

雛に発生するときは駆除を行うこと。駆除方法は除虫粉を虱が密集する所に散布することである。但し、除虫粉では羽毛についた虱卵は死滅させることはできないので、最初に駆除してから凡そ5, 6日後即ち虱卵がふ化する時に同じ駆除法を行い、必ず撲滅させること。虱駆除に菜種油、椿油を用いる者があるが、鶏の羽毛を湿潤させて病気の元を作ることになるので、これは良策であるということはない。

糞虫 一名「わくも」と称する。家鶏害虫の中で最も〇〇が甚だしいもので、その発生が最大になった時、鶏群は危機に陥り、次々に死滅する。またその鶏舎に出入りする飼養者の身体に付着して皮膚を刺し、その痛痒は忍び難い。糞虫の外形はかなり蜘蛛に酷似し、全身は大変小さい。そのため凝視しなければ容易に発見することができない。初生のは淡黄色であるが、成虫は生血を咬集するために血色もしくは暗黒色を呈する。この糞虫は常に鶏体に付着して害をなすものではない。日中は鶏舎の板壁の間か暗所に潜伏し、夜になると一斉に出て来てその猛毒を〇することを常とする。しかし大量に発生する時は昼夜の別なく散々匍匐して鶏や人体に付着しようとする。私たちの実験によると糞虫は次の場合に発生するようである。

- 1 晩春及び夏秋に孵卵中の巢中に発生する
- 2 上記の3期中に産卵函が不潔で常に着巢の気持ちがある鶏が伏坐しているとき

糞虫が発生するときは孵卵籠と産卵函の切藎は常に清潔を保つ必要がある。駆除は25倍の石炭酸または石油を糞虫が潜伏する所または匍匐するところに散布すること。鶏舎全部に多数発生する際、これを駆除するためには鶏舎の窓戸を密閉し、硫黄を燻蒸することとの説があるが、多くは効をなさない。むしろ、石炭酸または石油を鶏舎の内部一円に散布し、2, 3日間窓戸を密閉しておくとも必ず全滅するものである。

羽虫 寒暑温冷、親禽雛児の区別なく羽毛の中に棲息して生血を貪るものである。羽

虫の形状はほぼ虱に似て、その色は淡黄である。頭部はやや大きく、全身扁平で特に背部の皮膚は厚い。歩行と逃匿が非常に俊敏である。羽虫は糞虫のように一度に巨万の発生があることはないが、この虫も根本から駆除することは大変困難である。なぜならば羽虫は他の害虫と違ってその皮膚が丈夫なため、消毒剤を用いても濃厚で多量に使用しなければ効果を得ることができない。もしも濃厚で多量の消毒剤を用いれば、前述のように羽虫は生きた鶏の頸の羽毛に棲息するので、消毒剤がきつい時は逆に鶏が危なくなる。そのために撲滅しようとするのは大変不適当なことである。しかし、羽虫は土砂の冷たいことを嫌うので、その猛威を防ぐために砂浴場を完備する必要がある。

蚤 多くは4、5月と8、9月の頃に孵卵籠または産卵函の中で発生する。形状と性質等は我々人類を襲うものと大いに酷似するが、身体はやや長大で雌雄に大小がなく、飛躍することが少ない。蚤が鶏を害するのは昼夜の区別はない。特に抱卵と産卵中である。雌鶏が孵卵籠または産卵函を出ようとする時は、鶏体を害している蚤は○○鶏体を離れて、その底部に潜伏する。蚤が発生するのは孵卵籠や産卵函の中の切莖、脱糞、破卵の漏液が遺留したところである。掃除がなされていないことが原因である。駆除法は石炭酸若しくは石油、除虫粉を散布することである。このことにより蚤を撲滅させることは容易である。

銹虱 蚤に似ているが体が小さい。動きは極めて遅鈍で、鶏を捕まえる時に往々私たちの掌上に匍匐することがある。背部に黒い数条の経線があり、頭部が銹に似ているためにこの名前になった。夏期には鶏類の羽毛中に発生するが、その被害は甚だ少ない。且つ、蔓延することも稀である。駆除は30倍の石炭酸を少量羽毛に塗布する。

蚊 読者がよく知っているように夜間来襲して、全ての動物を劇刺する。殊に鶏は冠や顔面を侵蝕されて安眠することができない。その害が少なくないことは推して知るべし。100日以内の雛では蚊を防御しないと成育への害が甚大となる。その防御の用具は蚊帳のみである。しかし、100日以上の子や親鶏に蚊帳を使用することは困難であり、労力も少なからず必要である。そのため毎夕、鶏が埒に入る前に舎内に少量の石油を散布することは幾分かの効果がある。また、夜中に2回除虫菊の枯れ枝葉または生松葉、生杉葉、ビ○○の幹葉を燻蒸すること。これもまた効果がある。

ブイ 微細な羽族虫で形状と色沢は、晩春から中秋の頃に深山または曇天の日や朝夕に私達の手足に飛来して生血を貪るあの方言名「ブドウ」に似た小さい虫である。夏期と秋期に乾燥していない鶏糞か塵埃中に発生して、三回脱皮して羽が生え、飛翔する。昼間は戸壁か闇黒な空隙の間に潜伏し、夜になると出て来て鶏を悩ませるものである。ブイは鶏だけでなく牛馬も悩ませるが、その完全な駆除法が発見されていない。既述した蚊害駆除に従えば多少の効果がある。

## 24 鶏の3伝染病（腸窒扶斯、感冒、眼病）

### （1）腸窒扶斯（腸チフス）

私は養鶏業者として鶏が疾病に冒されるのを発見すると直ちに対応手段を講じるのは当然の職務である。しかし、未だに完全な治療、手術、予防で効果がないものが多い。私はこのことに関して所見を述べて、世間の同志に知らせるのは〇〇〇である。しかし、私は家禽学の素養があるわけではなく、また海外先進国におけるその業態に精通するものでもない。一言で言うと私は長年採卵肉を目的とする養鶏業に携わるので、その立場から〇説するのみである。願わくは趙括の兵法（ちょうかつのへいほう：机上の空論）でなければ幸い至極である。

家鶏の伝染病はコレラ、眼病、痔疾、腸チフス、感冒等その病症は大変多く、一つ一つ枚挙するものではないが、それらの中でも私の養鶏場を荒れ果てさせ、私を啞然自失させたものは腸室扶斯、感冒、眼病の3伝染病である。特に最も甚だしいものは腸室扶斯である。

私にこの病気について〇か所見を述べさせてほしい。

鶏の腸室扶斯は我が愛知県においては明治28年に発生し同29年に至り病毒が蔓延し、30年には猛威を振るい県下の養鶏場の殆どは惨絶悲絶の域に陥った。このため県下の養鶏業が大々的に頓挫する事態を招き、全くなすべもなかった。その際私の養鶏場も同じくその被害を罹り、29年においては鶏群の三分の一を〇し、30年に入ると同じく四分の一を失った。今日においても当時の状況を思い出すと全身が震え、肌に〇を生じる。世間は一時この腸チフスを目にしてコレラだと流布したが、これがコレラでないことは学者や業界の者の研究によって、すぐに公式に定められるに至った。（私の左手の友である故海部壮平という人がいた。彼は素手で飼鶏業を始め、数年後に数万金の富を得た。あるときその鶏群が真正のコレラに冒され、突然全羽数の十分の九を斃死させることになった。その病勢の恐ろしいことはその伝染力の迅速なことを審らか（つまびらか）に私に物語ったことがあった。この度、本誌の恩恵により、余白を使って読者諸賢に紹介するものである。）この病は旺盛な伝染性を有するが、人類の腸ペストと同じように、ある個体には伝染するが別の個体には伝染しないことがある。当初、鶏がこの病に感染するときの徴候は、嚙下した胃部の食餌は全く消化されず、発熱が甚だしく、血管が膨張し、肉質がやや淡紫色を呈し、青黒い柔軟な糞を続けて排出し、荐（しき）りに飲水をすることであるとされていた。しかし、この青黒の柔軟な脱糞をするのは発病後1日～2日である。この期間の病勢は尤も〇な時である。しかし、伝染力はこの期間が甚だしい。病鶏の多くはこの青黒の脱糞をする時に〇〇斃死するものである。しかし、その期間に斃死を免れて淡黄白色の液体の下痢をするようになると病症の終焉となる。病鶏は身体疲労して殆ど持続に堪えないような憔悴した容貌となり、肉髯が暗黒色を呈する。飲食の意欲を無くし、静かに鶏舎の一隅に孤立するか安座し〇仰して死を待つものようである。この中で万死に一生を得るものは百羽中の3、4羽位である。しかし、それらは健全無病の時に瘦肉で産卵が少ない貧血性の鶏である。一般的に豊肉で年齢に富み壮健な鶏は一たびこの病の襲撃に逢うと殆ど生命を全うするもの

はない。甚〇に残忍な病魔ではないか。養鶏家がこの病が鶏群に侵入したことを知るの  
は前述の徴候に因って判明することになるのであるが、既にこの病が各鶏に伝染してい  
るのを知り得るのは極めて容易である。〇暁、鶏舎に入り鶏が埒にいる時に、1羽1羽  
の鶏を捕まえて胃部を調べる。昨日採食した餌料が空虚なものはこの疾病に感染  
していないものである。しかし餌料が存在し、体温が高いものは既にこの疾病の患者で  
ある。この鶏を他の鶏舎に移動させておくと、1日～2日のうちに前述した疾病の徴候  
を呈するようになる。そもそも、この大変おそろしい腸チフスの防疫のために我が地方  
では、特に官吏を派遣して病因を調査した。一方その予防と治療に関して学者と当業者  
が刻苦研究（私もその一人である）したが未だに完全な予防と治療法を発見するに至っ  
ていない。私は29年当時、親交のあった薬剤師を招いて、多数の病鶏に対して種々の  
投薬を試みたり、施術をも行った。しかし、薬の力では少しも効果がなかった。しかし、  
胃部を切開し凝滞した食餌を掻き出し、切開部を縫着させたものでは数羽が回復した。  
この施術をした鶏は全て雌鶏であるが、5か月後によく産卵するようになった。私  
はこの病鶏に摂養的な食餌を与えた。その失費は健康な鶏を購入する以上のものとなっ  
た。そのためこの方法は寧むしろ採るに足りないものと断念した。私は更に進んでこの  
疾病の原因を解明しようと思う。ある者が言うには、その伝染は気候である。またあ  
る者は、空気的作用であると言う。ヒトの糞便であるとかその他、諸説紛々ではあるが、  
大体において立証の無い空想に他ならない。私はこれらを否定するものである。それ  
では私は下記の各項が伝染の原因と伝染を媒介するものがあると確信している。

#### 1 食器と水器

健全な鶏も当該病の患鶏と同居すると、食器水器を同じにすることにより伝染する。

#### 2 羽毛と脱糞

健全な鶏が病鶏の羽毛や脱糞を〇むとき。

#### 3 病鶏の死体

斃死鶏や病鶏を屠し、遺棄した血液や肉片骨子が健全な鶏に接触するとき。

#### 4 犬猫鼬鼠（イヌ、ネコ、イタチ、ネズミ）

犬猫鼬鼠は鶏の肉骨等を好んで食うものである。斃死鶏を食いちぎる。夜間に鶏  
舎に入り鶏の食器を舐めたり水器から飲水したり等によって伝染を媒介する。これは  
もっとも恐ろしいことである。

#### 5 鶏舎監守人

鶏群を監守する者は当該疾病が発生したときは周知な注意をして疾病の蔓延を防止  
するのは勿論のことである。しかし、知らず知らずに病鶏の取扱いに疎くなり、その  
吐瀉物を手足や器物に付けて健康な鶏に接触することである。

加えて、当該疾病の予防は如何にして上述した5項目に注意し、極力伝染を防止す  
るかはその業者が職務に誠実であるということは論を待たない。若しもたまたま鶏舎で  
当該疾病の鶏を発見したときはその鶏舎内の鶏群を注意深く疾病の有無を観察し、健康な

鶏は無病の鶏舎に移し、病鶏は他に隔離する。加えて、鶏舎の内外と近辺に隙間なく生石灰と石炭酸を散布して完全な消毒を行うこと。また食器と水器も同様に消毒し、当分の使用を停止すること。隔離した病鶏には決められた監守人のみが入りし、その際手足衣服にも注意して病原体が付着しないようにすることが肝要である。若しもそれができないのであれば発病した鶏の隔離・治療を断念して速やかに撲殺し、石油で直ちに焼却するのがよい。ある業者では、過去に当該疾病の侵入に逢った際に、自家でその弊死鶏または病鶏を食べ、骨肉片や羽毛、腸等を近辺に廃棄したところ病原体が益々不遜を極めて、鶏群が全て死亡した。恨み事を千載に残すことになるので、警戒しなければならない。

思い起こすと先年我が県下において当該疾病を勢いづかせた原因は雑多にあるが、無責任にその死体を原野に遺棄し、河川に投流したことはその蔓延を甚大にした原因である。これに鑑みて当該官○並びにその業者は大いに留意するべきである。(東京家禽雑誌第百拾壹号掲載)

## (2) 感冒

私の過去の経験によると鶏の感冒には2種類ある。その一つは流行性感冒でもう一つは不流行性感冒である。私が今、ここで言おうとしているのは流行性感冒である。世間の家禽学に通じる士は鶏の流行性感冒をループ又はロープと原語で呼称するが、私は浅学故に未だにその意味を理解できないでいる。そのためこれを流行性感冒と名付けている。流行性感冒は場合によっては特発性のものではあるが、十中九分九厘は他から伝染したものである。その伝染の情勢は迅速で、一羽の鶏が感染すると倏(たちまち)一群に及び、一群が感染すればあわただしく一鶏場全般に及ぶ。そしてそのウイルスは永久に残るので、その業者は大いに畏怖すべき病症である。特に恐れるべきは若い雛と他の病気に罹っている鶏又は資質が虚弱な鶏に伝染したときである。その際は十中五、六羽は十分な摂養を施さなければ斃死するに至る。健康な壮鶏が当該病の襲撃に逢えば、雌では産卵を休止し、雄では鳴声を○する。斃死することは稀であるが、容貌が痩せ衰え、体肉が甚だしく減少する。しかし、多くの場合雛は当該病に堪えることができない。これは体が成長中であり、総じて構造機能が脆弱なことによる。自衛が困難なのは人類の幼者と同じで、幼者が大人と同じ疾病に罹ると比較的落命が多数になるのと同じ理由であることは明らかである。母鶏を飼育する者であっても産卵が休止し、体肉を減じるような疾病であるので畏怖することは当然である。特に雛の養成中のときは予め大いに当該病の侵入を防御するのは重要な事である。若しも一度その侵入を受けたなら、育雛事業の一大打撃となる。たとえ病気を乗り越えたとしても雛は暫くして治癒するが、虚弱で満足に発育しない。成鳥に至っても我々の目的である強健肥肉で産卵豊富な鶏にならないと私は断言する。

鶏が流行性感冒に罹ったときの症状は食欲が大変減少し、鼻から透明な液体が垂れ

さがる。これが通常の徴候であるが往々に倦怠感を呈したり、あるいは眼中に泡沫を浮かべたり、肉髯又は頸部に腫脹を生じるものがある。あるいは気管の端に粘液が付着し呼吸を妨げるものがある。あるいは顔色が濃赤色に変わり絶えず苦悩するものがある。発病の徴候は一定ではないが、このように変調を呈するものは稀に見るところである。また、症状が重いので幼鶏または他の病気を併発する鶏などでは容易に回復の望みがない。普通の症状は日を経るに従い○○し鼻汁が濃厚となり呼吸に困難を生じ、頻繁に鼻頭を両腋下で摩擦するので、腋下の羽毛が鼻汁で濡れ、塵（ちり）で汚れる。漸くして当該病が危篤に至ると口中が点状又は一面に白色の物質が付着するようになる。同物質が気管を○し鼻穴を埋没させることで鶏は呼吸に堪えられずに開口する。その時々には適切な措置をしなければ斃死することは明白である。また、倦怠感の症状を呈するものは眼部一面が白色の物質で隠蔽し、終に失明するものがある。または肉髯が黒色を呈し、眼球が底に落ち、首を縮め、○○○々として○○を保つものがある。

当該病に対して我々その業者の覚悟は如何にあるべきか。つまり、予防にあるのか、治療にあるのか、又は他の手段によるのか。一般的に疾病は予防によって奏功することは言うまでもない。しかしこれはあの不死の薬を求めようとするに等しく、到底その希望通りになるものではない。従って、予防と治療を兼ねることは論を待たない。

私の信じるところによれば、当該病の予防には薬石の効は少ないようである。ここに私の愚見を開陳させてほしい。

一般的に当該病のいわゆる予防とは健全なことを保つことであるので、一分一秒たりとも間隙がないようにすることである。このことを言葉を替えて言うと、流行性感冒に対して私たちは毎時予防を怠ってはいけないということである。先ず予防の効果を上げるには、病毒侵入の原因を審に（つまびらかに）することである。次にこれを記述する。

#### 1 他の養鶏場から鶏を購入したり器具を運び込むとき

他人の養鶏場が既に鶏の流行性感冒に侵されていることを知らずに種鶏や雛を購入したり、器具を運び込んで自分の養鶏場で飼育したり使用したりするときは即ち当該病を誘い入れるものである。

#### 2 鶏売買商の出入り

世間の鶏売買商は生き物を商いと称し、概して不当な利益を得ることを理想とする結局は不逞の破廉恥漢が多い。そのため伝染性のある病鶏を扱った籠や○等を消毒したり棄却したりすることがない。そのため病毒が満載する籠や○等を携え平然と出入りするので、これらの取り締まりを断行しないために当該病が伝染するのである。

#### 3 隣近所で放し飼いにされている鶏

養鶏場には卵殻又は牡蠣殻があるので、隣近所で放飼される鶏が常に来る。その鶏が当該病に感染しているときは、たちまち養鶏場内に伝染する。

前述3項は当該病伝搬の主な原因であるがその他雑多な原因で伝染を招致する。その防御は大変困難で、施すべき対策に乏しいので精細な注意が必要である。たまたま当

該病がひとたび養鶏場に侵入し、病鶏が僅かに2、3羽に止まる時は腸チフスと同じ方法で隔離を試みると多少の効果が無いとは言えない。しかし、急激に各鶏舎に5羽、10羽の病鶏が発生する事態になれば、そのウイルスを撲滅する方法が全くない。

流行性感冒の初期の治療について、私は他の伝染病等を参考に数回試験を行ったが、見るべき効果があることは僅かであった。病鶏の鼻穴か口中に白色物質が付着して気管を塞ぎ呼吸を妨げるような時に、竹べらか耳かきのようなもので除去し、冷水で洗浄することを1日に2回位行う。そうすると衰弱が激しくないものは全快すること疑いない。眼部一面が泡沫や白色の物質で覆われている病鶏には同じ方法を施すことができる。また、当該病治療法の一つとして、本誌某○某氏が言うように、白色の物質を除去して硫酸鉄を塗抹することも大変効果がある。しかし、ふ化後約50日以内の雛はこの方法を施すことは危険が無くはないと、私は実験上少々疑っている。

要するに、流行性感冒は来襲が頻繁であるので、どの養鶏場もこの病魔に侵されることがあるということである。一見病勢がゆっくりしているように観られることがあるので、養鶏業者は大々的に注意を喚起することが目立たない。しかし、私は決してゆるやかではなく、迅速な伝染性と強烈なウイルスを有すると観ている。幸いにも当該病に感染した鶏が一度全快したとしても、鶏は大いに虚弱に陥り、他病を続発して直接間接に我等その養鶏業者の利益を損ねる。養鶏場の失敗の多くは当該病の余毒が源であると言っても敢て過言ではない。私が実際に当該病を恐れるので、常に一方法を固く信じている。それは他でもない、当該病を防御するには鎖国主義が必須である。私が言ういわゆる鎖国主義とは深い意味のあるものではない。他の鶏や鶏に関係する者または物品を分別なく自分の養鶏場に入れないということである。(東京家禽雑誌第百十二号摘出)

### (3) 眼病

一般的に鶏が成長した後に眼病に罹ることは全くない。稀にこれがある場合は他病との関係に因るものか又は自らの過失、闘争等に因って招致したものである。決して原病ではない。しかし、雛においては異常な伝染性を有する恐ろしい眼病がある。中でも重症のものは衰弱して死亡するものがある。私はこの眼病を「擦眼」と名付けている。これは雛がその眼病に罹った時に局部の痛痒のために盛んに脇又は脚趾で摩擦するために便宜上名付けたものである。

「擦眼」はふ化後5日から50日経過した雛に発生するものであり、壮老の鶏には伝染しない。雛から雛への伝染は大変迅速で雛の成長を阻害することは少なくない。

「擦眼」が発病する徴候は容易に人が気づくものである。瞼(まぶた)が張れて瞳もやや○上がり表面が灰白色を呈するようになる。そして常に涙液を出すことにより眼睫の羽毛が垢塵(こうじん:よごれとちり)で○される。この眼病は伝染性を有するので病雛を発見するときは直ちに隔離すると共に治療を行うこと。私は当該病の治療について未だ完全な良法を発見していないので、専ら病鶏の衰弱を予防することを唯一の手段としている。なお、過去に2、3の薬品で治療を試みたが著しい成果をえら

れなかった。これを某医師に告げてその意見を伺ったところ、人の眼病を治す薬品の多くは劇薬又は毒薬の類を用いるので家禽類もまた同一の薬剤であるべきである、とのことであった。従って私の考察も水泡に帰した。

私は他病の關係に因る眼病があることを前述した。これは流行性感冒に原因するものであり、その徴候及び療法は前前章に記述したとおりである。(東京家禽雑誌第十六号摘出)

## 2 5 鶏糞乾燥の一方法

生鶏糞はどの場所で堆積させても約8時間を経過しないうちに熱気を帯びて蒸発する。しかも、獣魚の肉骨片等を採食したものは特に甚だしい。生糞を蒸発させるとその乾燥はやや容易になるが養分が逸散し、重量が十分の五に減少するので勉めて蒸発を防ぐことは収益上重要な手段であると言える。

私の養鶏場の所在地は田舎にあるので鶏糞需要の顧客が多い。従って業務上特に鶏糞を重要視するのは前述の干○があることによる。現在の私たち関西地方における鶏糞相場は1円で71.25kgを売買している。養鶏家が鶏糞乾燥の方法を研究してその取扱いを厳にすることはもっともなことである。私の養鶏場での多年の経験による乾燥の一方法として便益だと思われるものがある。その方法は陳腐に属するとは思いますが同業者諸氏の参考とするためここに記載する。なお、下記の案は私の養鶏場の最大の乾燥場を標準とするものであるので、その面積、縦横幅を適宜に変更することを妨げない。

縦34.2m間、横2.7mで終日日光を受ける土地を選ぶ。その中央に縦10.8m、横1.8mの小屋を建造すること。その小屋の1.2mの屋根は雨露を凌げれば足りる。柱は1.8mにつき3本ずつ造り、両側に計39本(原文のまま。正確には26本?)を必要とする。横方には一切何物も用いない。柱は土中に打ち込むのが良い。地平から30cm位上部から両側の柱の内部に6cm角垂木を打ち付け、その上部に21cmの間を開けて同様に三段の垂木を打ち付けること。このようにするとその小屋の内部に四段の垂木を打ち付ける構造になる。左側の10.8mの所に小屋と同じ形状の杭木を打ち、これに6cm角垂木を段に打ち付けて、小屋の内部に打ち付けた下段二段の垂木に平行に接続すること(なお、左側の杭は短くし、右側の杭は長いのをを用いる。)。右側もこれと同じ方法で小屋の内部に打ち付けた上部二段の垂木と接続させること。そして6cm角垂木で縦10.8m、横1.8mの四角形のを四個作成する。底部に木皮又は板で横木を入れ、縦横に割竹を打ち付け縦縁(垂木)の中心間に送る。径12cmの檜小車を3個宛の取り付ける。最後に左右四段の垂木の上に四角形のもの各一個を載せて小屋に押し入れる。又は垂木の上に引き出す。小車が回転して大変軽妙である。その四角形の表面に蕎麦(そばむしろ)十二枚を敷き、生糞を播き広げ、左右一個は日光に当て、他は小屋に押し入れて置く。日光の庇護がなくても空気の流通が良いので蒸発の

恐れなく幾分か乾燥が得られる。また、雨雲天あるいは夜間は四角形4個を小屋に押し入れておく安全である。この乾燥場は縦34.2m間、横2.7mの土地に建設するものである。縦1.8m及び横90cmは鶏糞を取り扱う道路とする。また日光の照射が薄弱な冬期間に300羽の脱糞を乾燥するのに十分である。この方法は土地に余裕の所に適している。都会のようなどころでは到底望むべきものではないが、その規模を小さくすればこれまた格好のものを得ることになる。(東京家禽雑誌第百十一号抽出)

上図は私の養鶏場の最小の鶏糞乾燥場の略図である。長さ4.5mで一個の四角形内に藁藁五枚を敷く。

## 2.6 うすけ交趾の来歴と審査基準

おそらく「ウスケコーチン」鶏の審査基準を記述することができるのは私だけであると思う。そのため、私は慎重に正確を期すために先ずこの種の来歴を詳しく述べ、合理的な判断のもとに審査基準を確立することが妥当であると信じる。

記録によるとコーチン鶏は、むかし中国の原産で、当初はアジア大陸に伝播した。その後英国に渡り、大いに改良を加えられた。それ以来広く欧米に伝播し、我国に伝来した。その性質は温順で、体格は大きい。種類にバフ、黒色、白色、ハートリッチ等がある。

我国に初めて外国鶏種が輸入された時代を正確に知ることはできないが、推測するに推古天皇の時代に遣隋使が派遣されて以降宇多天皇の時代に至る間に、唐との行き来が盛んになった時代だと思う。その当時はこれらの鶏を「蜀鶏」又は「唐鶏」と言った。この時代を第一次とする。その後シャム鶏と南京チャボの二種類が我国に輸入されたのは慶長時代であった。その時代は安南シャムの商船が我国に伝来した時代であり、山田長政がシャム王を補佐して逆賊を退け、同国を平定した頃である。この時代を第二次とする。

第三次の時代は正に最近の事であるが、これまた記録が乏しく事実を知ることができない。おそらく、慶應3年5月に徳川幕府が開港を許可して以降今日に至る約38年間に輸入された鶏種は40種余の多さである。この第三次輸入鶏種のうち最初に輸入されたのはオランダ種である。これはオランダ人が直接輸入したものである。明治初年の頃には既に我国の各開港地及びその附近の交通の便のよいところで大に飼養されたと聞いている。オランダ種に続いて輸入されたのはコーチン種である。この種の輸入はおよそ明治6、7年頃である。同7、8年には同鶏種が我国各地で大変流行した。特にバフ種は黒色、白色等に比べて、一層好評を博した。その当時我が尾張名古屋地方においても同様にバフコーチンが好評を博した。それと共にこの鶏種の飼養を希望する者が大変多かつた。しかし、数の少ないこの種鶏を繁殖させて飼養を希望するたくさんの人々の需要に応ずることはできないことは明らかなことである。そのため、従来軍鶏を作出することに長けている名古屋地方の養鶏家は「バフコーチン」と「地鶏」(ここに「地鶏」と表記するものは軍鶏と地鶏の雑種で俗に「のまず」と呼ばれている体重の大きいものである)とを交配し、バフ色の光沢のものを作出した。これを「バフコーチン」と偽り、飼養希望者の需要に大に応じた。

即ち、この雑種が「ウスケコーチン」であり所謂「名古屋コーチン」と呼ばれる一鶏種の始めである。なお、尾張名古屋地方の養鶏家がこの雑種を一鶏種であると認知したのは最近の事である。純粋バフコーチンと地鶏にバフコーチンを交配した雑種の外貌を対比すると異なる点がたくさんあるが、その当時の人々は鶏を観察する目が極めて幼稚であった。そのため、単に羽毛が淡黄であることを以ってバフコーチンと雑種とが同一のものであるということを疑わなかった。しかし純粋バフコーチンと地鶏との雑種即ち「ウスケコーチン」とはその繁殖の点で大きな違いがあった。輸入されたバフコーチン及び白色、黒色等のコーチン種は第三次輸入鶏類の中で最も繁殖力が優れていると言われていたが、「ウスケコーチン」には数段劣っていた。仮に彼等を同じ場所で飼育した場合、「ウスケコーチン」が最も強く、遂にはバフコーチンを圧倒した。また、「ウスケコーチン」の雛の成育は極めて早く、孵化後約150～160日で産卵を始めるものもあるが、バフコーチンは10ヶ月になっても未だ交尾をしない。以上の理由でバフコーチンは飼養上、劣る点が多い。その結果バフコーチンは「ウスケコーチン」に凌駕され、遂に名古屋地方にはその品種は絶えることになった。

新品種である「ウスケコーチン」がバフコーチンに比べて尾張地方の養鶏家に歓待された一例を次に示す。バフコーチンの脚は黄色で多くの羽毛を有する。一方、「ウスケコーチン」の脚は青鉄色若しくは鉛色で少しの羽毛を有する。養鶏家がよく言うことは、脚が黄色の鶏は虚弱で産卵数が少ない。また、脚毛が多いと暑さに弱いと見受けられる。このように「ウスケコーチン」が名古屋地方の養鶏家に歓待されていたことを知ることができる。彼らが作出した鶏は僅か20年内外の短期間に、猛然な勢いで関西を席卷し、さらに中国地方と九州に伝播した。程なく関東と奥羽にも伝播した。このような勢いで伝播した鶏種は外にないことは事実であり、理由のあることである。

以上のことから我々は「ウスケコーチン」を我国の鶏の一品種とし、この審査標準を確定することが必要であり、正当であると主張する。しかし、ある養鶏家は「ウスケコーチン」即ち名古屋コーチンを見て雑種であると罵倒し、その存在を認めようとしなない。一方で時々自分の養鶏場で交配の結果、羽毛あるいは冠に異彩若くは異常を呈するものを出した時は「金色ブラマ、〇〇レグホン」という。または「何々」と勝手に命名し、その効用を誇大に吹聴して世間の人を欺く人がある。これは極めて悪質なことである。

私は更に「ウスケコーチン」という名称の由来について論じる。この名古屋地方に初めてバフコーチンを導入した時、その養鶏者はたまたま「バフ」という言葉を忘れ又「コーチン」を「クキン」と聞き違ったと言う。よって「黒色コーチン」を「クロクキン」と呼んだ。地鶏とバフコーチンの雑種を「ウスケクキン」と言った。「ウスケ」とは淡黄の意味である。しかしバフコーチンも地鶏とバフコーチンの雑種もその羽毛が淡黄であることからこれらを「ウスケコーチン」と思ったようである。一方、バフコーチンは既にこの地方では絶えていたので同種と地鶏との雑種を指して「ウスケ」と言った。そのため私は便宜上この呼称を採用した。また、「名古屋コーチン」という別名はその移出地方である京阪及

び東京の養鶏家がその産地に因み名付けたものである。

#### 審査基準

##### ○不合格の諸点

- ・脛（すね）の外側に羽毛を生じないもの
- ・脛が青鉄色若しくは鉛色でないもの
- ・雄鶏の鶏冠の一方に傷若しくは両側に凸起のあるもの
- ・尾が○んだもの
- ・背部が歪曲がるもの
- ・鷹膝羽があるもの
- ・雄鶏の体重が3.56kg以下のもの
- ・雌鶏の体重が2.7kg以下のもの
- ・若雄の体重が3.0kg以下のもの
- ・若雌の体重が2.25kg以下のもの

##### ○合格の諸点

###### ●雄鶏

- ・頭は鶏の大きさに対してやや大きい
- ・嘴は幹部が太く、よく湾曲して丸く、黄若しくは淡栗色
- ・眼は光輝があつて威があり淡紅色。顔面は真赤色
- ・鶏冠は大きな一枚冠で直立し、中部が高く、側面に分岐がない、鋸歯状で色が真赤色
- ・肉髯は円長で、皮質は軟らかく真赤色
- ・耳朶は寧ろ小さく真赤色
- ・頸は稍長かつ湾曲し、○羽が族生してその端は垂れて肩にかかる
- ・背部は広くかつ光沢があり鞍羽を有する
- ・胸部は厚かつ広い
- ・肩羽と腹羽には極僅かな黒羽が混じることがある
- ・翼羽は小さく、緊縮し、尖端は鞍羽になる
- ・軟羽はかなり発達するが膝頭を蓋うまでには至らない
- ・尾は広く大きく主羽と蓋羽は黒色又は暗栗色
- ・腿ははなはだ大きくて強く軟羽で蓋われる
- ・脛は恰好で太く、青鉄色若しくは鉛色で外側に羽毛がある
- ・趾は強大で○張し、外趾に羽毛がある若しくは脛羽で外趾の半分を蓋う
- ・羽毛は淡黄色で軟羽と鞍羽はやや濃厚である

###### ●雌鶏

- ・頭はやや大きい
- ・嘴はよく湾曲し青黄色
- ・眼はやや温和で紅色
- ・顔面は真赤色
- ・鶏冠は単一で薄く、直立し、若しくは僅かに一方に偏し、鋸歯細小で側面に分岐なく、真赤色
- ・肉髯は薄く細く、寧ろ広く、皮質は軟らかく真赤色
- ・耳朶は小さく真赤色
- ・頸は稍長く頸羽は垂れて僅かに肩に達する
- ・背部は平坦で広く、胸は厚かつ広く下部に傾くようになっている
- ・鞍羽は多く、体の後部を蓋う
- ・翼は小さく、体に密着し、その主羽は極めて緊縮する
- ・尾はやや長く、その端上部に仰向く
- ・腿は大きくて強く軟羽で蓋われる
- ・脛は恰好で、青鉄色若しくは鉛色で外側に羽毛がある
- ・趾は大きくて○張し、青鉄色若しくは鉛色を帯び、外趾の半分は脛羽で蓋われる若しくは羽毛が少し生える
- ・羽毛は淡黄色であるが尾羽は黒色若しくは淡黄と黒色が雑交する。頸羽の一端又は翼の主羽に黒色が混じることがあるが不合格にはならない。しかしこれがないものを優良とする。

## 27 参考（販売鶏類定価と運送手続き）

ふ化後5日経過雛及び種卵特別割引付○

- 特別 淡黄色交趾雛 ふ化後5日経過雛百羽代 11円、千羽代 100円  
種卵10個60銭、百個 5円

ウスケコーチンは一名を名古屋コーチンと言い、肉卵兼用種で特に柵飼にするには比べる者が無いほどの良鶏である。弊場で飼養する同種の群鶏は長年の改良の効果によって体重が重大で鮮明な淡黄の羽毛を有する。容貌が一定で頗る立派である。この品種が優良であるのは体重が雄で5.7kg、雌で4.7kgあることである。優にバフコーチンを凌ぐ。

- 実用 アンダルシヤン×交趾 雑種雛  
ふ化後5日経過雛百羽代 10円、千羽代 95円  
種卵10個50銭、百個 4円50銭

本種の体重はアンダルシヤン原種に比べて遥かに重く、産卵も少なくはない。かつ健康で採卵種としては頗る有益である。

- 卵用 白色レグホン雛 ふ化後5日経過雛百羽代 14円、千羽代 120円  
種卵10個80銭、百個 7円50銭

この種は産卵数が最も多いことで世間に定評がある。健康で繁殖が容易。採卵の目的を達成しようとするればぜひ、飼うべきである。

- 肉用 淡色ブラマ雛 ふ化後5日経過雛十羽代 2円50銭、百羽代 21円  
種卵10個80銭、百個 7円50銭

体格が偉大で風姿荘厳で肉味が佳良であることは他種の及ぶ所ではない。欧米人が家鶏中の王と賞賛するのも過言ではない。鶏肉需用を満たそうとするものは進んで飼養すること。

- 卵用 純粋アンダルシヤン雛  
ふ化後5日経過雛十羽代 2円50銭、百羽代 23円  
種卵10個1円、百個 9円

アンダルシヤンは青灰色及び黒色の2種ある。産卵種の中で最大の体格で、大卵多産と称せられ、養鶏界の絶賛の声が絶えない。

- 肉卵兼用 漣波ブリモウスロック雛  
ふ化後5日経過雛十羽代 2円50銭、百羽代 23円

種卵 10個 1円、百個 9円

肉用及び卵用を兼ねた鶏種は少なくないと言え、本種は特に優れたものである。

#### 鶏雛に関する内規

ふ化後5日を経過した雛百羽以上がご用の際はご注文を待って抱卵をさせるので、お申込みの際は代価の3分の1以上の手付金を送付してほしい。当方が代金を受領したら直ちに約定証を差し上げます。

#### ふ化後5日を経過した雛を遠路運送するのに安全な時間

ふ化後5日を経過した雛を遠路運送するには汽車便であれば1日2夜。汽船であれば1昼夜程度。この期間であれば安全に運送できる。

#### 種禽及び種雛、種卵の定価

種禽名称	効用	親 鶏 1 番代金	百日内外雛 1 番代金	孵化後5日経 過雛1羽代金	種 卵 1 個代金	摘要
淡黄色交趾 (一名名古屋コーチン)	卵肉 兼用	5円50銭	2円40銭	11銭	6銭	
真黒色交趾	肉用	8円	4円	25銭	10銭	
バフ交趾	同上	8円	4円	25銭	10銭	
淡色ブラマ	同上	8円	3円60銭	23銭	8銭	
漣波プリモスロック	卵肉 兼用	8円	4円	25銭	10銭	
金色ワイントット	同上	8円	4円	25銭	10銭	
ウーダン	同上	8円	4円	25銭	10銭	
単冠白色レグホン	卵用	5円80銭	2円80銭	15銭	8銭	
薔薇冠白色レグホン	同上	5円80銭	2円80銭	15銭	8銭	
褐色レグホン	卵用	8円	4円	25銭	10銭	
バフレグホン	同上	8円	4円	25銭	10銭	
黒色ミノルカ	同上	8円	4円	25銭	10銭	
青灰色アンダールヤン	同上	8円	4円	25銭	10銭	
銀色ハンバーグ	同上	8円	4円	25銭	10銭	
白毛冠黒色ポーランド	同上	8円	4円	25銭	10銭	
金色ポーランド	同上	8円	4円	25銭	10銭	
ラフレッシュ	同上	8円	4円	25銭	10銭	
青銅色七面鳥	肉用	7円	3円50銭	20銭	10銭	

灰 色七面鳥						
白色日本アヒル	同上	5円	2円	12銭	8銭	
黒色チャボ	愛玩	4円より	2円より	20銭より	8銭より	
コチチ	同上	4円より	2円より	20銭より	8銭より	

○闘争愛玩用 軍鶏各種 種鶏1番5円より20円迄 闘争用1雄3円より30円まで  
種卵1個10銭より50銭迄雛各種

軍鶏は当場の最も得意とするところで過去に多数の猛鶏や大鶏を出してその業界を風靡したことは数えるまでもない。母鶏選択には毎回膨大なお金を投じることを厭わない。特に昨今両年は地方において最も強健勇猛な軍鶏を収集することになっているので、その道の嗜好家の一声を乞う。

(備考) 右表では代金の標準を定めたが品種の良・不良、老鶏又は雛の経過の多少・生育の好悪によって自ずから代金が異なるので仔細はご来場又は照合をお願いします。

#### 特別割引

親鶏及び百日内外経過の雛は一時に多数のご用に向けては左の通り特別割引をいたします。

10羽以上50羽迄 2割引

50羽以上 3割引

名古屋交趾種に限り多数を飼育しておりますので多数を御用の向きは更に特別割引をご相談させていただきます。多数をご注文の節は運賃も別項のように安価になります。

#### 荷物運送手続

鶏の運送方法は汽車・汽船便で、需要諸君の最も便利な停車場・各港に荷物問屋若しくはお互いが可能な所まで運送します。予め着時間等を通知することができますので、同所迄出張し、お受取ください。もしも既定の場所まで遠隔のために、ご出張が不都合であれば、同所から通運会社に託してご指定地迄配達致すことができますので、ご注文の際はお受取に最も便利な場所等をご下命下さい。また種卵は普通運送に不便な地域であれば小包郵便で運送できますので、小包を取り扱う局名をご通知してください。

(但し小包郵便は種卵の孵化力に多少影響を及ぼすので成るべくなら汽車便又は普通運送便の方が安全だと存じます)

#### 運送途中の保険

種禽及び種雛は総て精良で無病健全なものを差し上げることは申すまでもありません。如何なる遠地にも安全に届けることができます。万が一途中で死傷その他の事故がある際は一切当方で負担し更に代品を差し上げます。

### 種禽及び種卵汽車運賃

種禽及び種卵の運送は汽車便がもっとも安全でかつ大変運送の便利があるので、おおむね汽車便で送付しております。運賃は左の通りです。

哩数	25 哩迄 一斤二銭	50 哩迄 一斤三銭	100 哩迄 一斤四銭	150 哩迄 一斤五銭	以上五十哩を増す 毎に一銭を加え る。乃ち五百哩は 十二銭となる。 賃金は総て官設線 の運賃による。
種禽一番運賃	20 銭	30 銭	40 銭	50 銭	
百日内外雛一番 運賃	10 銭	15 銭	20 銭	25 銭	
孵化後五日経 過雛百羽運賃	24 銭	36 銭	48 銭	60 銭	
種卵十個運賃	6 銭	9 銭	12 銭	15 銭	
種卵二十個運賃	10 銭	15 銭	20 銭	25 銭	

右は普通小荷物（易損品扱）の運賃である。その他に大貨物扱いとして百斤（1斤＝0.6kg：乃ち16貫目（1貫＝3.75kg）一哩（1.6km）に付き6厘の賃銭で送付するとの規定があります。一時に多数を送付する際は大いに便益であります。これは五十斤（乃ち8貫目）を最少量として五十斤未滿は何程でも五十斤の賃金とする。例えば百斤の荷物を百哩の地に送付するには運賃60銭の他に発着手数料4銭、計64銭（五十斤であればその半額）の運賃で運送する。普通小荷物に比べて大いに安価でございます。しかし本便は小荷物に比べて幾分の遅着は免れません。従って途中の取扱い等も多少粗〇あり。〇日子経過しない雛（百日以内）はこの方法に因ることは出来ないことを申し添えます。

### 小包郵便料

種卵は前記した汽車・汽船便が無い地域に限り小包郵便で送ることができます。料金は左の通りでございます（台湾に限り左記の倍額）。

量目	哩程		
	小牧局より 10 哩以内	同 100 哩以内	同 100 哩以外
200 日迄	5 銭	8 銭	16 銭
400 日迄	7 銭	12 銭	24 銭
600 日迄	9 銭	16 銭	32 銭
800 日迄	11 銭	20 銭	40 銭
1 貫目迄	13 銭	24 銭	48 銭
1 貫 250 目迄	15 銭	28 銭	56 銭
1 貫 500 目迄	17 銭	32 銭	64 銭

### 代金引替小包郵便

種卵ご注文に際しては、便利な代金引替小包郵便を以って送付することが出来ます。これを御望みの方は何々品を何郵便局へ代金引替小包郵便で送付せよとのご下命あれば直ちにご注文品を取り揃え出荷できます。同時に代金引替額をご通知いたします。その際ご指定の郵便局から受け取るべき旨の通知があり次第、当方からご通知申し上げます。金額ご持参の上、代金引替に荷物をお受け取り下さい。もっともこの際は前記小包料の外に引換え料10銭が必要となります。

### 種禽種卵荷造料

種禽1番につき	12銭	以上1番毎に20銭（但し雄1羽雌多数の時はその限りにあらず）
百日内外雛1番につき	12銭	以上5羽毎に廿銭
五日経過雛廿(20)羽につき	15銭	以上廿羽毎に15銭
種卵10個につき	10銭	廿個につき15銭（10個入り重量四百目迄、20個入り重量八百目迄）

### 肉用鶏及び家鴨、七面鳥

右は多少にかかわらず販売いたしておりますので、ご用をお申しつけください。相場は時々の変動がありますので、ご用の際はご照会又はご来場しご相談願います。目下の相場は左記の通りでございます。

明治		年	月	日	相場	各1貫目につき	
上雌		並雌		若雄		同爪	
						家鴨	七面鳥

### 為替金振込局

本場の尾張東春日井郡小牧郵便電信局分場は同郡坂下郵便局でございます。

### ！注意！

初生の雛及び20日内外経過の雛を安全に遠地に運送し得るのが弊場の特技です。弊場及び分場所在地は尾北の片田舎で土地が乾燥するので、鶏類飼養に最良であります。加えて飼料及び日用品が安価であるので生計の費消が少額で済みます。このため薄利で生産・販売することができます。運輸は既成の中央線停車場（本場の勝川駅分場は高蔵寺駅）に接近するので交通が極めて便利です。孵化後5日経過した雛及び2,30日経過の雛五百羽以上がご用の方はそのご希望に依って、本場員が指定地まで護送いたします。但し、この場合には船車賃半額を要請いたします。

弊場の雛は天然ふ化であるので無病健全に生育します。

漣波プリモウスロック及びワイアンドットは分場で特別に飼育していますので、ご入り用の方は分場へ照合又はご来場してご相談下さい。

○晩生搔葉菜

晩生搔葉菜は収穫が四回に渉り、鶏の副産物として最良であります。特に柵飼鶏では産卵した黄味が濃厚で○○たる香味を保たせるのに唯一の効果があります。弊場では毎年たくさん栽培しています。種子をお望みの方は郵券6銭を封入して申し込みしていただければ、1袋を差し上げます。栽培法を知ろうとする方は7銭5厘必要です。

○番犬及び猟犬

当场産ポインター雑種及びセッター雑種の親犬及び子犬を販売します。また、純粹種を委託販売しています。

明治34年12月上旬